

令和2年度
チャレンジいばらき作文コンクール

受賞作品集

テーマ

「わたしの町の魅力・発見」



チャレンジいばらき県民運動

令和2年度 チャレンジいばらき作文コンクール

1 目的

本県の未来を担う子どもたちに、作文を通じて茨城の良さに気付いてもらい、個性と創造性に富む心豊かな人づくりに資することを目的に作文コンクールを実施する。

本年度は、自分たちの住む町の魅力を再発見してもらい、地元への誇りと愛着心の向上、本県のさらなる魅力向上につなげるため、「わたしの町の魅力・発見」をテーマに作文を募集する。

2 主催 チャレンジいばらき県民運動

3 後援

茨城県 茨城県教育委員会 公益社団法人茨城県青少年育成協会
株式会社茨城新聞社 株式会社茨城放送 NHK 水戸放送局
毎日新聞水戸支局 読売新聞水戸支局 朝日新聞水戸総局
産経新聞社水戸支局 日本経済新聞社水戸支局
東京新聞水戸支局 茨城県学校長会 茨城県PTA連絡協議会

4 テーマ わたしの町の魅力・発見

5 対象

茨城県内の小学校・中学校、義務教育学校、中等教育学校及び特別支援学校に通学する児童・生徒

6 募集期間

令和2年5月29日（金）から9月4日（金）

7 部門及び応募数

部 門	応募数
小学校低学年の部	671
小学校高学年の部	854
中学校の部	1,973
合 計	3,498

8 表彰

茨城県知事賞	賞状及び副賞	3名
茨城県教育委員会 教育長賞	賞状及び副賞	3名
茨城新聞社長賞	賞状及び副賞	3名
チャレンジいばらき県民運動 理事長賞	賞状及び副賞	3名
チャレンジいばらき県民運動 奨励賞	賞状及び副賞	30名

9 審査・選考

チャレンジいばらき県民運動に設置した「作文コンクール審査会」の審査（令和2年10月2日及び10月21日開催）により各賞を選考した。

審査委員：20名

委員長：川嶋 秀之（茨城大学教育学部教授）

副委員長：小林由士郎（チャレンジいばらき県民運動 専務理事）

委員：小田部修一（茨城県教育庁総務企画部 生涯学習課長）

栗山 賢司（茨城県教育庁学校教育部 義務教育課長）

内桶 博仁（茨城県教育庁学校教育部 特別支援教育課長）

大高 茂樹（株式会社茨城新聞社 編集局報道部担当部長）

潮田 昌造（公益社団法人茨城県青少年育成協会 副会長）

県民活動推進員：井坂 英二、大久保 昌義、池田 智子、加藤 欣一、川野 和彦

河野 公房、菊地 寿代、小坏 明美、後藤 京子、島田 百子

寺内 義興、西村 重之、福間 智子

令和二年度

チャレンジいばらき作文コンクール

受賞作品

茨城県知事賞	(3名)
茨城県教育委員会教育長賞	(3名)
茨城新聞社長賞	(3名)
チャレンジいばらき県民運動理事長賞	(3名)
チャレンジいばらき県民運動奨励賞	(30名)

茨城県知事賞

那珂市立菅谷小学校	二年	二階堂大智	はくちようのとおりみち……	1
筑西市立上野小学校	五年	石島 和奈	「当たり前」の美しいふるさと……	1
つくば市立豊里中学校	三年	土田 有紗	私に今出来ること……	2

茨城県教育委員会教育長賞

茨城大学教育学部附属小学校	三年	中島 千智	なか川のみ力再発見！……	4
取手市立白山小学校	四年	岩館慎士朗	町をみりよくてきに……	4
水戸市立内原中学校	一年	大津未由奈	水戸の自慢「弘道館」……	5

茨城新聞社長賞

那珂市立菅谷小学校	一年	須藤 大輝	なかしのいいところ……	7
守谷市立高野小学校	六年	原 彩姫	わたしの町の素敵な場所……	7
水戸市立石川中学校	二年	保志美実花	野菜と私―地域の繋がりで学ぶ―	8

チャレンジいばらき県民運動 理事長賞

つくば市立栗原小学校	二年	野添 奏多	ゆめがたくさんあるぼくの町……	10
桜川市立雨引小学校	六年	根本 祐希	ぼくの大好きな場所……	10
筑西市立下館西中学校	一年	飯島 愛珠	素敵な私の町……	11

チャレンジいばらき県民運動 奨励賞

龍ヶ崎市立馴染柴小学校	一年	関口 陽瑠	りゆうがさきののくちせんしゅガンバッ！……	13
取手市立取手小学校	一年	岩田 想叶	わたしのまち……	13
つくば市立沼崎小学校	一年	笛田 京翼	わたしのまちのじまん……	14
茨城大学教育学部附属小学校	二年	木村 新	れきしいっぱい水戸のまち……	14
水戸市立常磐小学校	二年	菊池 颯真	ぼくのじまんのみとし……	15

水戸市立吉田小学校	二年	友常	そら 公園のひみつ……	16
守谷市立高野小学校	二年	澤野 美雅	みどりの町もりや……	16
つくば市立谷田部小学校	三年	釜屋 衣桜	わたしの町の自然のみりよく……	17
つくば市立谷田部小学校	三年	高村 桃佳	つくば山でサイクリング……	17
城里町立沢山小学校	三年	安藤 馨子	私が発見した町のいい所……	18
茨城大学教育学部附属小学校	四年	栗林 美侑	昔へタイムスリップ……	19
ひたちなか市立長堀小学校	四年	菅野 由真	私の自まんの小学校……	20
稲敷市立新利根小学校	四年	與板 俊介	ぼくの自まんの稲敷市……	21
境町立静小学校	四年	石井 悠生	すてきな町「さかい町」……	21
茨城大学教育学部附属小学校	五年	海老根理咲	水がわくまち水戸……	22
石岡市立南小学校	五年	坏 ひなた	オッシャイナ―、石岡へ！……	23
つくば市立荃崎第二小学校	五年	榎本 圭汰	茨城と言えば……	24
坂東市立岩井第二小学校	五年	落合ひなた	わたしの町のいいところ……	25
稲敷市立江戸崎小学校	五年	酒井優太郎	自然豊かなぼくのまち……	26
つくば市立島名小学校	六年	岩田明香里	小学校、廃校、そして未来……	27
土浦市立土浦第五中学校	七年	尾鷲 夏海	ぼく達の町の自慢できる風景……	28
土浦日本大学中等教育学校	一年	河野 千畝	筑波山の素敵なおとこ……	29
大洗町立南中学校	一年	平田 叶音	私の大好きな大洗の海……	30
石岡市立府中中学校	二年	勝倉 心美	素晴らしき自分の地域……	31
笠間市立岩間中学校	二年	伊勢山咲花	今の町、理想の町……	32
取手市立取手第一中学校	二年	飯塚 美衣	ふるさと再発見……	33
鹿嶋市立大野中学校	二年	萩原 海音	私の町「鹿嶋」……	34
日立市立平沢中学校	三年	柏 奈歩	私が暮らす町日立市について……	35
笠間市立みなみ学園義務教育学校	九年	中村 壮汰	笠間のいいところ……	37
筑西市立下館西中学校	三年	池沢 果倫	私の住んでいる田舎の魅力……	38

はくちょうのとおりみち

那珂市立萱谷小学校 二年 二階堂 大智

ぼくがすんでいるなかしには、たくさんのおじまさんがあります。きゆうしよくにも出る、おいしいやさいをそだてていたり、ぼくのおじいちゃんのはたけには、キラキラかがやくほうせきみたいなタママシがいたり、とにかくしぜんがいっぱいです。その中でも、みんなに「ばんじまんしたい」とは「ぼくのつう学ろは、はくちょうのとおりみち」ということです。まいとしふゆがきて、はじめてはくちょうにあうときは、

「おはよう。ひさしぶりにあえたね。」

と思つてうれしくなります。あさの七じ三十分。学校に行くじかんに、すこし先のいけから、はくちょうたちがとびたちます。ぼくの頭スレスレをとおつてとんでいく。手をのばしたら、さわれそうな気がするくらいです。

「そんなにひくくて、大きな車にぶつからないのかなあ。」と思ひながらとんでいるはくちょうを下から見ることがたのしいです。数えてみると、5わから9わ、おおいときで12わがリーダーのはくちょうを先とうにブイ字でとんで行く。広げた羽は、ぼくよりずっと大きくて、はばたく音も「バサリ。バサリ。」とびつくりするような音でとぶのです。

なかしをしらべると、まい年ふゆにはくちょうがひら

ることのでゆうめいでした。よるぼくがねるじかんの八じ三十分ごろには、そこからはくちょうたちのとぶ音と高いこえの「アー、アーッ。」

と、なくこえもきこえてきます。ふゆになるとはくちょうがぼくの頭の上をとぶ。なんとなくあたり前と思つていただけ、シベリアからとくたびをしてくるはくちょうは、ぼくのすむなかしをえらんできてくれていたことをしりました。ぼくは、はくちょうがくるなカしのしぜんをずっとまもつていきたいです。

「当たり前」の美しいふるさと

筑西市立上野小学校 五年 石島 和奈

私は、筑西市に生まれて十一年になる。この十一年、まわりにあるものは当たり前と思つて過ごしてきた。私はふと思つた。その、「当たり前」とはなんだろう。

私は小さいころ野菜があまり好きではなかったが、今は大好きだ。それは、祖父母が米や野菜を作ってくれたり、母がよく地元でとれる野菜を買ってきてくれて、いつも新せんでおいしい野菜を食べていたからだと思う。当たり前に食べているものは、祖父母や農家の人達が、私の知らないところで、苦労して育てたものだ。だから、その人達に感しやして、これからもおいしく野菜をいただきたい。

私は、景色をながめることが好きだ。住んでいるところからは、筑波山が見えて季節によって、いろいろな景色が楽し

める。春は、校庭の桜がさき、桜の木の下にはブランコがあり、そのおくに筑波山が見える。また、筑波山をバックにした、しばふのように広がる田んぼは、ゆう大でとてもすてきだ。夏は、明野ひまわりフェスティバルがあり、筑波山とのコラボレーションは、まるで、がくぶちに入っている一枚の絵のように見えて、とても美しい。秋には、緑から茶に変わった田んぼに、赤とんぼがたくさんいて、そこには、いつもと同じように筑波山がある。冬には、うっすら雪をかぶった筑波山を見ることが出来る。そして、ときどき朝見ることが出来るのは、筑波山のふもとに、もやがかかった幻想的な景色だ。この当たり前に見えている景色も、ここに住んでいないと、味わうことができないのだ。

ここは、都会ではないけれど、時間がゆっくりと過ぎていくように感じて、落ちついて毎日が過ごせる。のんびりやの私にとっては、とても居心地のいい場所だ。

私が通う小学校は、一年生から六年生まで合わせて、百二人という少ない学校だが、さみしいと思っただけではない。それは、同年代だけでなく、たてわりはん活動があり、他の学年との交流があるからだ。学校全体が、あたたかい感じがする。授業も先生が、分かりやすく、時にはおもしろく教えてくれる。毎日、当たり前のように学校生活をおくっているが、私の知らないところで、きっと先生方が、授業の準備をしてくれて、苦労されているのだと思う。だから、私はこれから、楽しく一生けん命、授業を受けたい。

私が当たり前と思って過ごしている日々は、周りの人達に支えられているということに気づいた。これからも、毎日を

大切に過ごしていきたい。

そのような思いをいだけせてくれる、ふるさと茨城県が、私は大好きだ。

私に今出来ること

つくば市立豊里中学校 三年 土田 有紗

今年はずいぶん雨で、稲の生育があまり良くない。毎日天気予報を確認し、空を見上げる祖父の顔は曇りがちだ。一人言の様に「今日も雨か。」そうつぶやきながら田んぼへ行き、水や生育具合を確認し、その時に合った対応を考える。それをもう何十年とやってきた祖父でさえ、天候には振り回されているのだ。ため息が多くなった祖父に私は何もしてあげられなかった。

私が今まで見てきたのは、しっかりと根の張った太い緑の稲の周りを、水が勢い良くゴーゴーと流れる風景だ。暑い夏の太陽がキラキラしていても、それを見ると涼しさが感じられて、とても心地よく思える。それが今年はずいぶん水音を聞く機会が少なく、私は音で田んぼを身近に感じていたと気がついた。祖父同様、私の生活の中にも、田んぼはしっかりと根づいているようだ。八月に入ると、やっと太陽が顔を出し、暑い日が続く様になった。心配事が一つ減った祖父の顔には笑顔が戻ってきたが、秋の収穫まではまだまだ気の抜けない事が多い。その時々状況に応じて、追肥、雑草取り、病虫害等、機械には頼れない人の手による作業がかなり沢山あるのだ。

地味で細かい事ばかりだが、米作りにはどれも欠かす事は出来ない。それを黙々とこなす祖父の背中はとても大きくて、私にとつてとても尊敬出来る存在だ。

この夏、祖父のために、かまどでご飯を炊いて食べさせてあげたいと考えていた。ずっと雨ざらしだったためかなり風化しているが、家の庭に古いかまどがある。その存在はとも異質で、私は小さい頃からずっと興味を持っていた。小学校の社会の授業で、昔の道具について勉強した時、家に現存している物が沢山あってそのうちの一つ、かまどをいつか使ってみたいと考えていた。私の曾祖父達が実際に使っていたかまどでお米を炊いたら祖父が喜ぶのではないかと思ったからだ。私はまず、祖母に相談した。するとどこからともなく古い釜を持ち出して来て、かまどの上にセットし、木製のフタを乗せた。私は教科書でしか見た事のないその姿にとっても感動した。

「今回は練習で、新米が出来たらもう一度炊こう。」

そう言いながら釜を洗う祖母は、とてもはしゃいでいる様に見えた。まず、良くといだお米を釜に入れ、火をつける。薪を「くべる」事から始まるのだ。

「始めちよろちよろ中ばっぱ、赤子泣いてもフタ取るな。」

そう歌いながら、手際良く進める祖母の隣で、じつくり観察をした。十五分位すると、フタと釜の間から勢い良く泡が吹きこぼれてきた。今まで見た事のない光景に驚きと、期待がふくらんだ。その後薪を取り火の調節したら、むらして完成だ。果たしてその出来は、祖父がこんなに美味しいご飯を食べるのは久々だと喜ぶ位上出来だった。お米がツヤツヤ

と輝いていて、噛むと甘みがあり、いつも食べているものと同じとは思えない位美味しかった。

ご先祖様が代々守ってきた田んぼを、今は祖父が一人で懸命に守っている。祖父の年齢を考えると、いつまでこの作業が出来るか分からない。我が家にも後継者問題があり、先の手事を考えると、不安になる事が多い。かまどで炊いたご飯が美味しかった理由の一つは、祖父がお米を丹精込めて作っているからに違いない。祖父の代で米作りをやめるのは簡単だ。でもそうになると、この緑広がる田んぼや、私の好きな水音を聞く事、美味しいご飯を食べる事は出来なくなってしまう。その時が来たら私はどう思うだろう。私はまだ将来何をしたいのか分からない。ただ、この田んぼはずっと守っていきたいと思う。何が大切なのか、何を守るべきか、あとで後悔しないように、自分の将来と一緒に考えていきたい。



なか川のみ力再発見！

茨城大学教育学部附属小学校 三年 中 島 千 智

去年の十月、台風十九号の大雨で、水戸の町にも大きな被害が出ました。特に、なか川の水が増えて、はらんしてしまったことは大きなニュースになりました。

私の家は、なか川のていぼうにありますが、台風十九号の大雨で、ていぼうギリギリまで水が増えていく様子を見て、とてもこわかったことを今でもおぼえています。

このけいけんから、私は「どうして川のそばに町があるのかな」「川がない所に町を作ればこわくないの」と考えるようになりました。すると、お父さんが川の役わりについて教えてくれました。

昔、私の家のあたりには、小麦こを作る工場があったそうです。工場で作られた小麦こを出来るだけたくさん運ぶために、なか川に船をうかべていたそうです。昔は、道路が十分に作られていなかったため、川を使って物を運ぶことがとても大事だったのです。私は川は生活や仕事をべんりにしてくれるので、川のそばに町が作られたのだと分りました。

また、川のはらんは、ていぼうを作ることでおさえられるそうです。これは「治水」といって、昔から町作りの中で大事なこととされてきたそうです。私の家のすぐうらにも大

きなていぼうがあります。いつも、さん歩やサイクリングをするのに使っています。台風十九号から家を守ってくれた、たのもしいていぼうだと感じています。

このように、川はべんりなもので、ていぼうがあれば大雨の時もこわくありません。でも、なか川で私が一番好きな所は、ほう石のようにキラキラとかがやく川のけしきです。きせつや天気によって、川の色はさまざまに変わって見えます。秋になるとサケがそ上し、冬になるとたくさんのカモがやって来ます。夏には私が苦手な虫も出てきますが、川のそばでのくらしは、とてもよいものです。

町をみりよくてきに

取手市立白山小学校 四年 岩 舘 慎士朗

駅前大通りから一本小道に入ったところにあるお寺のようち園、白山幼稚園。ぼくがこの町で一番好きな場所です。白山幼稚園は、今ぼくが通っている小学校のとなりにあります。創立昭和十五年、ぼくの町の中では一番昔からあるようち園です。駅前にも関わらず、かしの木や桜の木など緑がゆたかで、幼稚園の前には小さなかわいいの様の像が、みんなをおだやかに見守っています。

卒園して四年がたつけれど、今でもひんぱんに顔を出すくらい、ぼくは白山幼稚園が好きです。いつ行っても先生たちがやさしくむかえてくれます。ぼくに気がつくとき、「ちかちゃんおかえり。」

と言っただきしめてくれます。そうしたら、ぼくは元気になるんです。

白山幼稚園に来る卒園生はぼくだけではありません。ぼくと同級生や他の学年の人が来ているのもよく見かけます。一年生が新しいランドセルを見せにくるすがたも、六年生がそつ業しよう書を見せにくるすがたも毎年見ます。それに、ぼくのような園からの友達のはまれ君のお母さんも、はるかちゃんのお父さんも、ここに通っていたそうです。白山幼稚園はみんなの帰る場所なんだと思います。

ぼくは、うれしいことがあった時、話を聞いてもらいたくて、心がもやもやする時、大好きだと言ってもらいたくて、白山幼稚園に行きたくなります。でもそれだけでなく、じゅ業中、幼稚園からなじみのある音楽がきこえてくると、なぜだかわからないけどすぐ行きたくくなります。行って、大好きな中村先生に会ってパワーをもらいたくなります。幼稚園生の時のように素直にあまえられる、ぼくにとつてとても安心できるところなのです。すてきな場所だと思います。そんなところがぼくの町にあつて、

「やったあ。」
ぼくのじまんです。

白山幼稚園のことをかんがえていたら、ぼくなりにみりよくてきな場所とはどんなところか答えが出ました。ぼくにとつてみりよくてきな場所とは、そこにいるとありのままにいられる。そして帰りたいと思える場所です。白山幼稚園だけでなく、ぼくの住んでいる町全体がそんな場所になれたら、なんてすばらしいことでしょう。それをかなえるためには、

白山幼稚園の先生のような人がたくさんいる町にしたいと思えます。そしてぼくもその一人になりたいです。他の人に、

「おかえり。」

と言っただきしめてあげたり、はげましてあげたりできるような人になりたいです。

ぼくは白山幼稚園というすてきなうち園を卒園しているので、町をすてきにできる一員にきつとなれると思っっています。

水戸の自慢「弘道館」

水戸市立内原中学校 一年 大津 未由奈

皆さんは、「水戸」と聞いて何が浮かびますか、多くの人は偕楽園を想像するかもしれませんが、では私はというと、弘道館を思い浮かべます。興味をもつたのは、小学四年生の頃です。授業で水戸について調べる際に、当時まだ名前しか知らなかった弘道館を、少しの好奇心で調べることにしたので

まず、インターネットで検索をしました。分かったことは、弘道館は水戸藩の藩校であつたということです。さらに、当時最大規模の藩校であつたそうで、私はとても驚きました。「そんなに凄い所が水戸にあつたんだ」と、今まで郷土に無関心で、偕楽園くらいしか知らなかっただけに、ただただ呆気にとられるしかありませんでした。

それで興味が湧き、何か水戸について調べる時には必ず弘道館を調べるようになりました。現地に足を運ぶこともとても大切なので、調べる際には必ず弘道館に行くようにしています。実際に行って資料を見て知れたことは、弘道館の設立者のことです。水戸藩第九代藩主、徳川斉昭が藩政改革のため設立しました。さらに、「学問には休息も必要」というような斉昭らの考えに基づき、領民と藩士、弘道館で学ぶ者の憩いの場として偕楽園を設けました。私は偕楽園と弘道館の設立者が同じこと、そして何よりも、その教育への考え方に、またしても驚きました。学問ばかりを優先しない考え方は、当時としてはかなり珍しい考えではないかと私は思います。それを知ることにより、弘道館は独自の考えに基づき、最先端の教育をしていたのかもしれないと思い、何も知らなかった当時の自分を恥じる気持ちまで浮かぶようになりました。

次に弘道館について知ったことは、学びの幅の広さです。どういうことなのかといいますと、普段私が学ぶような算術などの勉強から、医学などの専門的な分野、人としての礼を教える儒学、さらに武術まで、幅広く学ぶことができたのです。弘道館に展示されていた説明文には、「現在で言う総合大学のようなところだった」とも書いてありました。私はそれを知り、斉昭や水戸藩の人々は、今だけでなく、これから先の未来を背負う若者達のことまで考えていたのだな、と視野が広い人達だと思いました。また、当人達がそこまで見えていたかは分かりませんが、私はこの幅広い分野が学べる弘道館は、当時の若者達の可能性を、確実に広げていたと思います。

四年生の頃に興味をもち、弘道館について多くのことを調べていくうちに、いつの間にか弘道館が大好きになっていました。弘道館へはそれから、何回か訪れています。不思議なもので、行く度に新しい事を知ることができて、「今度はおそこに着目して見てみよう」と新たな好奇心が生れるのです。そんなことを繰り返すうちに、また弘道館が自分の中で大きな存在になってゆくのですね。弘道館だけではありません。徳川斉昭もまた、自分の中で大きな存在であり、とても尊敬しています。私は、斉昭のことを「当時の日本を変革できる考え方もついていた人なのでは」と思います。教育に関心をもち、多くの若者の可能性を広げ、皆が心安まる場所をつくって下さいました。私はこの水戸の歴史ある藩校と徳川斉昭のことを、自分自身でもっと知りたいと思うと同時に、多くの人に弘道館のことを知って欲しいとも思うようになりました。「弘道館は当時の最先端で素晴らしい藩校である」ということを先程述べましたが、それだけではないように感じるので。私は弘道館を知ること、学べることへのありがたみ、水戸の歴史について、学校の意味など、考えることのできなかつた多くのことを学ぶことができました。弘道館は今も多くのことを教えてくれる「水戸の学び舎」だと思っています。さらに多くの人に水戸の名所、弘道館のことを知っていただきたいです。

なかしのいいところ

那珂市立菅谷小学校 一年 須藤 大輝

なかしのいいところは、たんぼがあるところ。たんぼには、たくさんのむしがいるので、ぼくは好きです。

ぼくのいえのまえには、ひろーいたんぼがあります。みとしからひっこしてきたときにいいなあとおもいました。

ぼくのいえでは、たんぼはつくってないけど、たうえといねかりのたいけんをしたことがあります。たうえをするところ、あしについてきもちわるかったです。でもたうえのところには、いきものがいっぱいいます。なながいたかというところには、いきものがいっぱいいます。なながいたかというところには、いきものがいっぱいいます。

みずかまきりとげんごろうとおたまじゃくしです。おたまじゃくしは、うじゃうじゃいっぱいいてくろくなくなっていました。

なつになるとおたまじゃくしがかえるになって、まいにちげろげろとないていました。みどりになったたんぼには、とんぼがとんでいました。とんぼは、たんぼにたまごをうみましました。らいねん、またとんぼにあえるとおもいます。

あきには、いねかりをしました。みどりだったいねがきんいろになっていて、びっくりしました。いねかりをしていると、へびがでてきて、すしこわかったです。いねかりのおわったたんぼには、ばったやいなごやおろぎが、ぴよんぴよんいっぱいはねていました。

たんぼは、いろいろないきもののおうちです。たんぼがめのまえにあつてよかったです。これからもたんぼをみるのがたのしみです。

わたしの町の素敵なお場所

守谷市立高野小学校 六年 原 彩 姫

わたしが一番素敵だなと思う場所はわたしの自宅の前です。近所に幼なじみの友達がたくさんいて、家族同士も仲が良く、学校に行く時、帰る時、夕方もここには誰かしら友達がいて遊ぶ声が聞こえにぎやかです。家の前に行けばいつでも幼なじみの友達、友達の家族に会える、この安心感はわたしにはとても心強いです。

元々わたしは守谷にずっと住んでいるわけではなく、千葉県に住んでいました。父親の仕事の都合で幼稚園の頃に守谷に引越してきました。なぜ今の家に住んだのか両親に聞いてみたところ、今の家の前の近所の子供達がとても楽しそうに遊んでいて、わたしもここでたくさん友達を作って楽しく生活することができると思ったからだそうです。

わたしは引越したばかりの頃、人見知りで自分から話しかけるのが苦手な性格なので友達ができるか不安でした。最初は上手に話すことができず、なかなか輪の中に入ることができませんでした。幼稚園が終わった後に毎日遊ぶようになり、いつの間にか一緒にいるととても安心できる親友ができていました。近所の家族みんなまでバーベキューをやったり、

お祭りに行ったり、お誕生日会をやったり、入園、卒園、赤ちゃんの誕生を祝いあったり、わたしは近所の幼なじみの家族に育てられ一緒に成長してきました。

いつの間にか三つ離れた弟も同じ小学校に入学し、あれだけ小さかったわたしも六年生になりました。いつものようにわたしの家の前に近所の幼なじみが集まって集団登校する時、後ろから皆の姿を見守っていると、一緒に成長してきたんだとなんだか照れくさい感じがします。

だからわたしにとってこの場所はとても素敵な大切な場所です。これから中学、高校、大学、その先もずっと、きっとわたしの一番素敵な大切な場所になると思います。わたしも将来親になったら、わたしの子供にも同じように素敵な場所を見つけて欲しいと思います。

野菜と私―地域の繋がりで学ぶ―

水戸市立石川中学校 二年 保 志 美実花

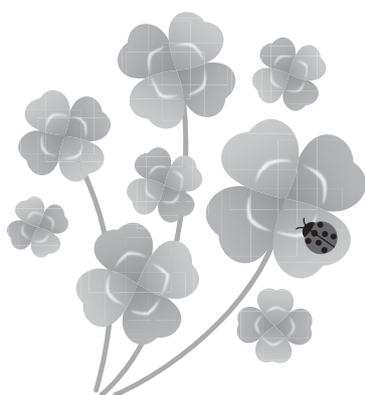
ミンミンミンミン……。今年もセミの大合唱だ。今年も梅雨明けが遅れて一気に夏がやって来たせいか、いつになくにぎやかだ。

私は水戸市に住んでいる。家は市街地からは離れたのどかな所にある。家のそばには緑地公園と児童公園があり、たくさんのお木が植えられている。どんぐり、けやき、さくら、もみじなど季節ごとに様々な景色が見られ、地域の方たちの目を楽しませている。また昆虫採集にもうってつけの場所で夏

休みは子供たちの姿もよく見られる。私は通学路でここを通るのだが一番いいと思う所は、夏はとても涼しいという事だ。私は中学でテニス部に所属している。この夏休みも暑さの中日々練習に励んでいる。部活が終わると、私は足早に家へと帰るのだが、この公園の前になるとゆっくりと歩く。なぜかという心地よい風が吹いてきて、木かげがとても涼しいからだ。私は思った。都会ではこういう所はほとんどないのではと。そう思うと田舎に住んでいてよかったとしみじみ感じた。一息ついたら、家まではあとわずか。私はまた足早に歩いた。家に着くと、エアコンの前に横たわりアイスを食べる。すると母の「お昼ご飯できたよ」の声が聞こえた。今日のお昼は冷しかま玉うどん。私の好物だ。その横には、きゅうりにみそがそえられたお皿があった。実は私はきゅうりが大好物なのだ。しかもこのきゅうりは、ご近所の方からいただいたとれたてのきゅうりなのだ。このきゅうりを食べれば熱中症もコロナもなんのそのというくらい美味しいのだ。私の近所には、大きな花農家があるのだがその方が花だけでなく沢山の野菜も育てていて、そこでお手伝いをして近所の方が農家さんたちで食べきれないので近所の方たちでどうぞと配ってくれるのだ。春はブロッコリー、キャベツ、にんじん。夏はきゅうり、ピーマン、なす。冬は、白菜、ネギ、大根といった具合に種類豊富なたれたての野菜をいただくのだが、どれもとても美味しいのだ。社会の授業で学んだが、茨城県は温和な気候と広大な大地に恵まれているため、農業に適している。農業産出額は九年連続全国二位と、全国に誇れる産業の一つとなっているそうだ。だから野菜が美味しいのだろ

う。私の野菜好きの理由も、小さい頃から新鮮な野菜を食べ
ていたからかもしれないと思った。そして改めて農家さん
は感謝しなくてはならないと思った。

この野菜の出来事もそうだが、もう一つ震災の時に断水で
困っている近所の方たちに井戸水を分けてくれて、皆本当に
助けられた事があった。私の住む周りにはこうした温かい人
達が支え合っている。私はそう思う。都会に憧れる事もある
がやはりこの町と茨城が好きだと。そして自分でもこの先地
域に貢献できるようにになりたいと思いつながらこれから迎える
秋の果物狩り、なし、ぶどう、りんご、かき、栗どれにしよ
うかとわくわくしている自分につくづく茨城っ子だと思っ
た。



ゆめがたくさんあるぼくの町

つくば市立栗原小学校 二年 野 添 奏 多

ぼくのすんでいるつくば市には、とても大きくかつこいいロケットがあります。ロケットがあるエキスポセンターは、ワクワクするものがたくさんあります。今年の夏休みも、お父さんと行きました。

まい年、かならずプラネタリウムを見ます。プラネタリウムはくらいけど、たくさんのほしが見えるので、明るくかんじました。近くでほしを見ているようでとてもきれいでした。二かいには、ロケットのもけいやうちゅうふくがあります。うちゅうふくは、どこからいきをするのかなと、ふしぎに思いました。でも、とてもかつこよかったです。

ぼくは、うちゅうふくの中に入ったことがあります。エキスポセンターの近くに、うちゅうのけんきゅうをしているJAXAがあります。ここにも大きなロケットがあります。JAXAでは、うちゅうふくの中に入ることができます。うちゅうひこうしになった気分でした。

ぼくのゆめは、うちゅうひこうしになることです。小さいころから、エキスポセンターやJAXAによくあそびに行きました。大きいロケットを見て、いつかのつてみたいと思えました。プラネタリウムで見たキラキラした小さなほしを近く

で見てみたいです。モコモコして手がかたくて、少しいきぐるしそうだけど、かつこいいうちゅうふくをきて、しようわくせいや知らないほしやわくせいに行ってみたいです。

つくば市には、うちゅうにかんけいしたり、けんきゅうする場所がたくさんあります。たのしみながらいろいろなことをしることができます。

ゆめがたくさんあるつくば市がとても大好きです。遠くの友だちもたくさんあそびにきてほしいです。

ぼくの大好きな場所

桜川市立雨引小学校 六年 根 本 祐 希

ぼくの通う雨引小学校のすぐ西側に、旧雨引駅があります。ここは、三十年以上も前にはい線になった筑波鉄道の駅のあと地で、今でも上りと下りのホームが残っています。

以前、神奈川県に住む親せきのおばさんが、

「昔は、土浦駅で筑波鉄道に乗りかえて、雨引に里帰りしていたんだよ。筑波鉄道の電車はガタガタとゆれて、それが子供達も大喜びでね。」

と話してくれました。周りには、つくば山や加波山などの山もあるし、田んぼや畑も広がっていて自然がいっぱいなので、車窓からのながめも最高だったに違いありません。電車好きなのは、一度でいいから乗ってみたかったな…と、心の底から思いました。

ある日、旧雨引駅のホームに座り、ほんやりと電車の事を

思い浮かべてみました。車両は短くて、きつとバスみたいにかわいかつたんだらうとか、駅舎は木造でレトロだったんだらうとか、色々想像をしました。すると、まるで自分が本当に電車に乗っているような、楽しい気持ちになつてきたのです。でも、おばさんが神奈川にもどる時には、家族がこのホームに立ち、電車が見えなくなるまで見送つていたんだらうかと想像し、少し悲しい気持ちにもなりました。：

ぼくにとつてこの場所は、筑波鉄道や昔の事を想像できる、特別な場所なのです。

それからもう一つ、ここが好きなの理由があります。それは、ホームの桜がとてもきれいだという事です。とても大きな桜で、線路だった部分のりんりんロードは、まるで桜のトンネルのようになります。そして、ヒラヒラと散る花びらはピンク色の雪のようで、夢の中にいるみたいなのです。

サイクリングをしている人達が自転車を停めて、「本当に見事な桜だなー。」

と言つて感動していました。毎年この桜を見ているぼくは、自分がほめられたようにうれしくなりました。ぼくにとつては、ここが日本一の桜の名所です。

百年経つても二百年経つても、旧雨引駅がこのままであつてほしいなと思います。ホームに座りながら、百年後を想像するのも楽しいです。

素敵な私の町

筑西市立下館西中学校 一年 飯 島 愛 珠

元日の朝、私は毎年、早起きをして、近所では有名な場所に行きます。見渡す限りの美しい田園風景の先に山々が連なり、一番高い筑波山の後ろから、まるでエネルギーがわき上がるように光があふれ出します。やがて、筑波山の中央からゆっくりと太陽が顔を出します。私が自慢したい、私の町の大好きな景色です。この日の出を見ると、新しい一年が始まつたことを実感し、とてもすがすがしい気持ちになります。

また別の季節、私が中学校に登校する時、近所に住む農家の方が、仕事を終えてちょうどトラクターで戻つてきました。雑草が生えた畑をきれいに耕してきましたのです。意識をして周りをしながら学校に向かうと、他の田畑も同じようにきれいに整備されています。そんな風景にふと、野菜を自家栽培している祖母の姿が目につかびました。私が畑に顔を出すと、祖母はいつも私と話をしながら、同時に草取りもしています。少し手入れをしないだけで、あつという間に雑草が増え、荒れてしまうそうです。

思い返してみると、先日近所の県道でも、除草作業が行われていました。小学生の頃、私も通学路として毎日歩いていました。雑草が伸びてくると車が見えにくくだけでなく、車からのポイ捨てや、心無い人の廃棄などで、空き缶やごみが落ちていたりあります。その日は、十人以上の方が手分けをして、汗を流しながら作業をしてくれました。除

草作業が終わった県道は、すっきりとして歩きやすく、早速
たくさんの人が早朝や夕方に散歩やウォーキングで行き交っ
ていました。この県道では、作業員の方だけでなく、近所の
方が自ら進んで袋を持参し、ごみを拾い集めてくださる場面
もよく目にします。いつもきれいに整備され、緑あふれる県
道は、市民の方々に愛され、誰もが歩きたくなる素敵なお道
です。

「そっか、そういうことか」私は、全部の事柄を合わせて考
えてみた時に、大切な答えが見えてきた気がしました。

私が毎年楽しみにしている日の出も、毎日見ている近所の
田畑も、私の好きな景色や風景は、どれも美しく魅力にあふ
れています。でもそれは、決して当たり前の風景ではなく地
域の方を含め、たくさんの方々が汗を流したり、寒さに耐え
たり、大変な事を乗りこえて守り続けて下さったものだと気
が付きました。地域の方々の優しいまなざしは、私達にも注
がれています。「いってらっしゃい」「気を付けて」など、気
さくに声をかけて下さったり、暗く危険な道に街灯を設置し
てくれたりと、私達が安全に安心して登下校できるように見
守って下さっています。

私の住むこの町は、大地が育んだ豊かな自然に恵まれ、地
域の方々の優しい心と郷土愛に支えられています。一人ひと
りが美しい景色や風景を大切に守り、助け合って生活をして
います。私も引き継げるように、この町の一員として頑張り
たいです。まずは元気で気持ちのいいあいさつを実行し、明
るく、活気のある町を目指していきたいと思っています。



りゆうがさきののぐちせんしゅガンバツ!

龍ヶ崎市立馴柴小学校 一年 関 口 陽 瑠

わたしがすきなりゆうがさきしのみりよくは、スポーツク
ライミングののぐちあきよせんしゅです。のぐちせんしゅは、
とうきようオリンピックにでるつよいせんしゅで、たかいか
べをじょうずにのほります。

りゆうがさきしの「たつのこアリーナ」のなかには、ボル
ダリングができるところがあります。そのぼしよは、アリー
ナのおくにあつて、のぐちせんしゅのしゃしんもかざつてあ
ります。

わたしもやつてみたことがあるけれど、1メートルはのほ
れました。

かべをのほるときは、のほりかたをあたまでかんがえて、
じぶんのであしをじょうずにつかいます。

わたしは、はじめてスポーツクライミングをみにいったと
き、のぐちせんしゅにサインをかいてもらいました。

そのとき、のぐちせんしゅからなまえをきかれました。わ
たしは、はずかしかったけれどなまえをいうと、サインのう
えにわたしのなまえをいれてくれました。

サインは、わたしのつくえのうえにたいせつにかざつてあ
ります。

そのあとも、スポーツクライミングのたいかいをかぞくで
みにいきました。そのときもいろいろなせんしゅがいて、の
ぐちせんしゅもでていました。

いちばんまえのせきで「ガンバツ!」と大きなこえでおう
えんしました。のほりおわたたあとに、わたしたちのほうを
むいてわらつてくれました。

わたしは、とうきようオリンピックでのぐちせんしゅが金
メダルをとるところがみたいです。

だから、わたしはとうきようオリンピックのときも大きな
こえで「ガンバツ!」とおうえんします。

わたしのまち

取手市立取手小学校 一年 岩 田 想 叶

わたしがすむまちとりでは、とね川がながれ、とてもす
てきなすみやすいまちです。とね川ちかくのどてでは、まい
としはなびたいかいや、どんどやきなどがおこなわれます。
ことしは、ちゅうしになつてしまいました。いつもならた
のしみにしています。どてには、たくさんのあそべるひろば
があり、やすみのひにともちやおうさんといっしょに、
スケボーやじてんしゃであそぶことがおおいです。ふゆに、
ゆきがふつたときには、そりをしたり、ゆきがつせんをしま
した。

ゆうがた、どてへさんぽにいくと、ゆうひやふじさんがみ
えたりしてとてもきれいだとおもいました。

あめあがりには、にじがでたときには、どこまでもおいかけました。

そのあと、よつばのクローバーをさがしたり、いろいろなおはなをつんだりしました。

どてのうえをずっとあるいていくと、でんしゃがとおっているところがあって、そのしたにいるときにでんしゃがとおると、「ガタン、ゴトン」とものすごいおおきなおとがします。それときゃくのほうこうにあるいていくと、けしきがかわり、かたらいのさとやじょうすいじょうがみえます。さんぽをしているひと、はしっているひとがたくさんいます。さんぽをとりでしには、このようにたくさんさんのしぜんがあつて、とてもいいところだとおもいます。

わたしのまちのじまん

つくば市立沼崎小学校 一年 笛田 京翼

わたしのまちのじまんでできる場所はつくば山です。ことの四がつにちちと二かいいきました。けしきがきれいでかぜもさわやかでした。とちゅうできゅうけいしておにぎりをたべました。山でたべるといつもよりおいしかったです。はんぶんぐらいのぼったところで、ちちがひきかえそうかといいました。せつかくここまでできたのであきらめずにのぼりたいとおもいました。どんだんのぼっていくとみたことがないようなおおきなしがたくさんありました。いわといわがかさなりあっていました。あめがふったばかりなのであるき

にくかったです。かえるのようにピョンピョンととんでいきました。やつとうえまでたどりついてうれしかったです。いちばんうえではそらがきれいでした。したをみるとおく、おちそうでこわかったです。うえでソフトクリームをたべました。おりるときは、一かいはケーブルカーで、二かいはモノレールでおりました。ケーブルカーでおりるときは、ガタガタゆれておちるかとおもいました。

つくば山は、おおきなわがかさなりあっているけしききれいです。山のぼりはたいへんですが、すつきりしてたのしいです。山でたべるとはんもおいしいです。あきはこうようがきれいなのでまたいきたいです。こんどはいきもかえりもあるいていこうかとおもいます。

これがわたしのまちのじまんのつくば山です。

れきしいっぱい水戸のまち

茨城大学教育学部附属小学校 二年 木村 新

ぼくの通っている学校のまわりのことを教えます。ぼくは、まい日水戸じょう大手門を、とう校しています。むかし、ここに水戸じょうがあつたのだなと思うと、タイムスリッ プした気分がわくわくします。

これから、じゅぎょうで町たんけんに行った時のことを話します。まず、見晴らし台に行きました。なか川がとても近くに見えてびつくりしました。川のながれる音がジャーっと聞こえて、ながれがつよそうだなあと思いました。つぎに、

高校の中にあるやくい門に行きました。すごく大きくて、ドーンとたっていました。さいごに、こうどうかんに行きました。「こうどうかんは、水戸はんから、りっぱなおさむらいさんをそだてるための学校だったんだよ」とおねえちゃんが教えてくれました。中に入ると、大きなかみに、何か字が書いてありました。ぼくは、その字が読めなかったので、おかあさんになにが書いてあるか聞くと、「そんじょう」と書いてあるよと教えてくれました。大きなかん字が二文字書いてあったのが、とても心にのこりました。それから、「おにがわら」がかざられていました。おにがわらには、ハートの 모양がありました。おかあさんが、これは、「いの目」というものでまよけのいみがあると教えてくれました。こうどうかんは、中に入ると、そこから見るよりずっとひろくて、ぼくもこんなところでべんきょうしてみたいなと思いました。ぼくの通っている学校のまわりには、たくさんのれきしがあることがわかりました。おやこ町たんけんをする前よりも学校のまわりのいいところをいっぱい知ることができてうれしかったし、もっと水戸がすきになりました。

ぼくのじまんのみとし

水戸市立常磐小学校 二年 菊池 颯真

「ここがぼくのすむ町。」

けんちょうのてんぼうだいから大すきなみとしをみおろしました。ここから見えるけしきがぼくをそだててくれている

町です。

とおくのおじいちゃんのお田んぼ。ここでそだてているお米はつやつやもちもち、今にもたきたてごはんのおいがしてきそうです。

なか川のていぼうはぼくのマラソンコース。はしっているときみながこえをかけてくれ、がんばれとおうえんしてくれます。長いていぼうにつづく海がとても近くにかんじてしまいます。

そしておじいちゃんがねじりんぼう、とよぶシンボルタワー。とうきょうタワーやスカイツリーにまけないくらいぼくにとっては日本一です。くねくねの形がみりよくてきで、がようしでつくるのはすごくむずかしいです。その近くには町の中にオアシスである千ばこ。夏の花火大会の日は、おひるねもできないほどよるがくるのをたのしみにしています。となりにはかいらくえんのこうぶんてい。うめまつりのときのおわふわとさくピンクの花がとてもきれいです。

ぼくのすんでいる町にはたくさんのすてきなじまんできるころがあつて、ここで生かっているのだと思うと、とてもしあわせな気もちになります。けんちょうのかえりみち、「大きくなったら、ここがそうまのふるさとになるんだよ。」と、おとうさんがいいました。

たくさんのしぜんとゆたかなみどり、れきしあふれるぼくの町「みとし」がじまんのふるさとになるように、ぼくはこの町をまもっていききたいと思いました。みとの町をかんじ、こんなにしあわせな気もちになれる日がこの先もずっとつづいていくようにたいせつにしていこうときめました。

公園のひみつ

水戸市立吉田小学校 二年 友 常 そ ら

わたしのいえの近くには、とうぶ公園というところがあります。わたしは、休みの日のあさ、五じ三十分におきてその公園へお父さんとランニングに行きます。ランニングをはじめたりゆうは、コロナウイルスでそとにあそびに行けなくて、うんどうぶ足になりそうなたしを見て、お父さんが、

「あさ、はしりに行こう！」

と言われたからです。そこでわたしは、二つのひみつを見つけてきました。

一つ目は、毎日たくさんの人があつまってラジオ体そうをしていることです。おばあさんと話をしたら、

「ラジオ体そうは、三十年いじょうやっています。」

と教えてくれました。みんな元気でびっくりしました。

「いっしょにやろう。」

と言われましたが、はずかしくて出きませんでした。

二つ目は、いつも歩きながらごみひろいをしていている人がいます。みんながあそびにくる前にきれいにしています。ごいと思えました。そして、わたしもやってみたいと思ひ、ごみひろいをしました。そのときに、

「ごみひろいをして、えらいね。」

とおじいさんにほめられて、うれしかったです。もつていたごみのふくろはすぐにいっぱいになりました。ごみのポイすてはいけないと思ひました。たいへんだったけれど、きれ

いになっていくのを見て、またごみひろいをしたい、つづけたいと思ひました。

この二つのひみつは、あさ早くに公園に行かないと分からないことでした。気もちがよくて、キラキラしている公園には、そんなひみつがありました。この公園は、わたしの町のすてきなところですよ。

みどりの町もりや

守谷市立高野小学校 二年 澤 野 美 雅

わたしは、みどり色が好きです。みどりのなかでも、こいみどり色が好きです。みどりをを見ると、うっとりする気もちになります。それはなぜなのか考えてみました。

わたしの家のには、お花ややさいや木があります。ちかくのゆうほうやこうえんにも、たくさんの花や木があります。おかあさんが、教えてくれました。わたしがあくるようになつてから、まい日こうえんへ行つていたそうです。小さいころからたくさんのみどりを見ていたから、みどりが好きなんだと思ひました。

秋になると、しょくぶつがかれて、ちゃ色になります。そのうなると少しさびしい気もちになります。でも、その間しょくぶつたちは、はるにむけてゆつくり休んでいるのだと思ひます。でも、しょくぶつは、おみやげをくれます。まつぼつくりやどんぐり、おちばです。それをつかつて、どんぐりのマラカス、おちばのトランプ、まつぼつくりのツリーを学校

で作りました。ちゃ色くなってもわたしたちを、たのしませ
てくれることがわかりました。

もりやには、たくさんのしぜんがあります。

「しぜんは、人の心をゆたかにしてくれるんだよ。」

と、おとうさんが言っていました。そんなみどりをたくさん
そだてているもりやは、あたたかい町だと思います。

学校につけていくマスクは、もりやしからもらったマスク
です。もりやしのマークがみどり色で、かわいいマークです。
つけていると、「がんばるぞ！」という気もちになれます。
コロナで学校が長い間休みになった時、くらい気もちになり
ました。でも、もりやのマスクがとどいて、なんだか元気を
だしてね、とおうえんされているようなきがしました。
そんなみどりがいっぱい、やさしいもりやが、わたしは
大スキです。

わたしの町の自然のみりよく

つくば市立谷田部小学校 三年 釜屋 衣桜

今年はじめに山にのぼりました。のぼった山は、わたしの
町にあるほうきょう山です。

田んぼ道をぬけてと山かいし。田んぼにはカエルやおたま
じゃくしがたくさんいて、緑色のいねがたくさん育っていま
す。わたしが行ったのは、朝五時だったので、たいようがの
ぼりはじめて、田んぼの水はキラキラと光っていて、とても
きれいでした。

と山をはじめからは、木も草も青あおとしげっていまし
た。川が緑の中をながれていてきれいでした。水はとうめい
で、さわるととてもつめたかったです。わたしはあせをかい
ていたのもとても気もちよかったです。

足もとは、石でガタガタ歩いて歩きにくかったけれど、
がんばってちよう上までのぼりました。のぼっているときは
つらかったけどちよう上についたときは、きれいなけしきが
広がっていてとてもうれしかったです。ちよう上からは、つ
くば山やかすみがうらも見ることができました。

ちよう上では持つていったジュースとおかしを兄と分けて
食べました。いつもとちがう場所で食べるおかしはかくべつ
で、とてもおいしかったです。

わたしのまちには、きれいな田んぼや緑、虫や鳥がいてす
ばらしい自然があることを知りました。また、わたしの町の
まわりには、みずうみなどの大自然が広がっていることもわ
かりました。

家に帰ってからほうきょう山のしゅういで育てられている
お米について調べてみました。小田北じようさん地米コシヒ
カリという米で、むかしけんじようされたことがあることも
わかりました。そんなおいしいお米をわたしも食べてみたい
と思いました。

たくさんの自然ときれいなお水や空気、それらで作られる
おいしいお米があることがわたしの町のみりよくでありじま
んです。

つくば山でサイクリング

つくば市立谷田部小学校 三年 高村 桃佳

わたしは、自てん車でサイクリングすることが、大すきです。いつもは、家の近くをながれる谷田川ぞいの田んぼ道や、どうほう公園などを、お父さんといっしょに走っています。

二年生の国語のじゅぎょうで、つくば山にこしをおろす「いだらぼう」のお話をききました。わたしは、今までは、火山でへこんだと思っていました。そのお話を聞いて、つくば山に行ってみたくなり、つくばりんりんロードのサイクリングに行くことにしました。

今回は、小田からつくば山口という駅までを走ることになりました。この場所は、さくらの木がたくさんあり、木と木の間から、光がさしこんでいるところがとてもきれいでした。ときどき、田んぼをながめながら休けいして飲み物を飲んだり、おやつを食べたりしました。

すずしい風も通りぬけていって、とても気持ちよかったです。つくば山に向かっていると、「あそこでいだらぼうがすわったんだなあ」と思っていたら、いだらぼうがつくば山にすわって、わたしに手をふっているような気がしました。わたしは、うれしくなって、どんどんスピードをあげていきました。

ゴールのつくば山口は、むかしは、てつ道が通っていて、今も、その駅のホームがのこっていました。古いものが、今も大切にのこされていてすてきなあと感じました。

わたしの住むつくば市には、新しい研究をしている所がたくさんあります。未来に向けた研究と、自ぜんやれきしがのこるこのつくば市のことをこれからもっと知りたいと思いました。

私が発見した町のいい所

城里町立沢山小学校 三年 安藤 馨子

私が住んでいるしろ里町沢山地区をしようかいます。

ご前山県立自ぜん公園があります。水戸とく川家によって「山の木を切つてはいけない」とめいれいがあり、今でも三百年い上生きているマツやスギの木があります。自ぜんがたくさんあるので、百しゆるいの野鳥や四十しゆるい上のちようもみることが出来ます。ししのヒゲのように見えるシランや、カタクリソウなどめずらしい植物もさいています。登山コースもあり、たくさんの方が登山に来てくれています。さい近では、しろ里町では山の中を駆けぬける「トレイルラン」という大会も始まりました。自ぜんゆたかな公園の中を走るの、とても気持ちがいだらうなと思います。

また私と弟はカブト虫やクワガタ虫が好きです。夏には虫探しに山へ行きます。いつも何匹つかまえられるかとても楽しみです。ミヤマクワガタをつかまえる事ができます。

沢山小では五、六年生が「緑の少年だん」として、夏休みに登山をしながらゴミ拾いをしています。地いきの方たちと一緒に山を守りつづけています。私も五年生になった時に、

活動できるのが今からとても楽しみです。

近くにはなかが川がながれています。とち木県からながれてきて太平洋にながれて行きます。全長百五十キロメートルにもなります。かん東地方で三番目、全国でも十八番目の大きな川です。しろ里町はなかが川の間地点です。アユやサケなど多くの魚が来る川としても有名です。なかが川にかかる「なかが川大はし」近くでは、キャンプやつり、水遊びをする人が来てくれています。山が多く空気もきれいなので、冬にはキレイな星空をみることが出来ます。

私が大人になっても、今とかわらない自ぜんが多くてたくさんの方が遊びに来てくれるしろ里町が続きますように。

昔へタイムスリップ

茨城大学教育学部附属小学校 四年 栗 林 美 侑

みなさんは、こう道館や大手門を見たことがありますか。わたしは、いつも学校から帰るときに大手門を通ったり、こう道館を見たりしています。大手門を通ったり、こう道館を見たりしていると、昔にタイムスリップしたように感じます。みなさんは、「タイムスリップなんてできるわけないじゃん。」と思いますよね。でも、わたしは「昔の人もこうやって歩いていたのかな。」「昔の人は、どんなふうに勉強していたのかな。」と思いつつながら建物を見てみると、昔の人の気持ちになることができて、本当にタイムスリップしたように感じることができます。

こう道館は、昔の学校で、外にはうめの木がたくさんあり、春になるとうめの花がいっぱい咲いています。だからわたしは、春によく行っていきます。うめの木の間を歩いてみると、うめの花がとてもきれいで、春にしか見れないすてきな景色だなと思います。きつと昔の人も、季節ごとに変わるうめの花を見て、勉強のつかれをとって、落ち着いた気持ちになっただらうと思うと、わたしと同じだなと思ううれしくなります。こう道館の中には、昔の人が書いたノートや本が置いてあります。今は、えん筆や消しゴムで書いているけど、昔の人は筆で書いていて、着物を着てたのに大変だっただろうなと思います。それに、わたしたちはランドセルで登校できるけど、昔の人は筆や紙、弓などはどうやって持って行ったのかなときもんだんでできます。だから、わたしはこう道館に行くときワクワクします。

大手門は、今年の春に完成しました。作っているときは「なんで作っているんだらう。」ととてもふしぎに思っていました。大手門は、木でできているので二階はふつうには行けないけれど、ちゃんとあるんです。昔、二階へ行つて、鉄ぼうをうって城を守っていたということを聞いたので、想ぞうしてみようと、守っているところがイメージできて、城を守るためにたくさんの方が戦っているところがかっこいいなと思えるし、すごくワクワクドキドキしてしまいます。だから、作ってくれてよかったです。

わたしは、こう道館や大手門を見ると、昔のことがずーっとイメージできて、タイムスリップした気持ちになれるところがやっぱり好きです。この町には、たくさんのおれきしがあっ

て、建物が今と昔をつないでくれているんだと思います。昔の人がいて、今のわたしたちがいるから、もつと昔のことも大切にしたいし、大切にしている気持ちがあるから、すてきなところだなと思います。今、わたしは昔の建物を見て、昔のこととをよく知ったり、昔の人の気持ちになることができます。だからこれからは、未来に向けて、今のわたしたちのくらしのいいところも伝わる物をのこしていくことも大事にしたいと思います。

私の自まんの小学校

ひたちなか市立長堀小学校 四年 菅野 由真

私が通う長堀小学校は、自まんの小学校です。たくさんの方達がいて、やさしい先生方がいて、毎日、楽しく学校に通っています。それに、長堀小学校には、楽しみな行事がたくさんあります。運動会や米作り、長堀祭などは、学校だけではなく、地いきの方たちもたくさん加して下さる楽しい行事です。

毎年、五月になると、全校児童で、学校の近くの田んぼに、田植えに行きます。田植えでは、青野先生と海野さんという地いきの方が中心となって、長堀小学校の児童のために田んぼのじゅんぴをして、苗の植え方を教えてくださいます。ドロの中に足を入れると、つめたくて、歩きにくいです。一年生で、初めて田植えをした時は、うまく歩けず、転びそうになりました。私達が植えた苗を、海野さん達がよく育つように、お

世話をしてくれます。

秋になると、育ったいねをかります。その時も青野先生や海野さんがいねのかり方や気をつけることを教えてくださいます。その他にお米の神様について話してくれたり、米を作るには、八十八の手間がかかることを教えてくださいました。初めて聞く話だったので、「なるほど。」と感心しました。

三年生の「総合的な学習の時間」では、地いきの特産物であるサツマイモを育てたり、サツマイモについて調べたりしました。その時も、青野先生と海野さんに、サツマイモの苗の植え方を教えてもらったり、サツマイモの掘り方を教えてもらったりしました。サツマイモは、毎年たくさん掘れるので、全校児童に、「おすそ分け」します。三年生は、掘ったサツマイモで、かんそういも作りも、教えてもらいました。初めてだったけれど、自分たちで作ったかんそういもは、おいしく作れました。

地いきの方が先生となって、私達にいろいろなことを教えて下さることは、とても勉強になるし、楽しいです。毎年、秋の「長堀祭」では、いつもお世話になっている地いきの方をしよう待って三年生の作るサツマイモをプレゼントします。去年は、私達が作ったサツマイモをプレゼントしました。よろこんでもらえて、とてもうれしかったです。

今年は、コロナウイルスのえいきょうで、田植えができず、さんねんでした。でも、私の通う長堀小学校は、地いきの方達にきょう力してもらい、楽しい行事がたくさんある、すてきな学校です。これから、自まんの小学校であるように、先生や地いきの方に教えてもらったことを、下級生に伝えて

いきたいです。

ぼくの自まんの稲敷市

稲敷市立新利根小学校 四年 與 板 俊 介

今日はぼくの住んでいる稲敷市の自まん話をします。

まずは、稲敷市の名前です。名前は漢字で書くと、「稲が敷いている」ですが、本当にそのとおりで、みわたすかぎりの田んぼです。

春は、さくらの季節ですが、ぼくの家のみわりでは、稲作のじゅんぴのため、水田に水がはられます。米の苗は、十センチ位の小さな緑色をした子供の葉ですが、それが水田にうえられていきます。そのころには、水田におたまじゃくしやザリガニもでてきて、にぎやかです。

暑くなる夏は、稲がすくすくと伸びて、ぼくのひざよりも高く、一面緑色です。稲の先には、まだわかい稲ほがなつていて、重そうに体をまげています。いつもは、ブヨの集団になやまされますが、今年は、気の早いイナゴがピョンピョンはねています。いつもみないぐらいの多さです。春にいったばいいたザリガニが夏には、どこにいったかみあたらなくなりません。新米の季節はそままできています。

秋になると町の名前のように、田んぼは黄金色になり、頭をたれた一面の稲が敷かれた風けいになります。地平線の先も実った稲の線になります。ぼくの家は農家ではありませんが、家族総出で稲かりをしているすがたがみられます。

米どころの稲敷なので、お米がふんだんととれて、おいしいです。しかも、コシヒカリだけではなく、ミルキークイーンは、とても有名です。近くのJAの農産物販売店に行くと、どこよりもはやく新米のおにぎりが食べられます。そのおにぎりを一口食べて思うのは、「稲敷のお米は、おいしいなあ」と思います。

稲かりが終わるころ、アキアカネが楽しそうに追いかけてこを始めます。とんぼをみるとそろそろ冬になってくるんだなと思います。

冬の田んぼは、寒くてさびしくみえます。春先や夏にいた生き物のすがたはみえなくなります。稲敷の田んぼは、ひっそりとしています。ただこうだいな田んぼのそんざいかんがあります。

ぼくの自まんの稲敷の田んぼの風けいは、このように変化し続けます。一年に四つの風けいがみられるのは幸せだと思います。

そして、毎年おいしいお米が食べられる稲敷にうまれてよかったです。ぼくの自まんの町です。

すてきな町「さかい町」

境町立静小学校 四年 石 井 悠 生

「菜の花フェスティバル、ふるさと祭り、花火大会、町民運動会、だるま市」ぼくの住んでいる町には、学校行事と同じように四季おりおりのイベントが毎年行われています。ぼく

の住む町、「境町」。ぼくはこの町が大好きです。この他にも境町には、たくさんのみ力があります。

一つ目は「食」です。自然ゆたかで、お米や野菜もたくさんしゅうかくされています。ときどき境町でとれた野菜を使った料理が給食にすることもあります。茨城にちなんだメニューや他の国々の有名な料理が出る境町の給食はとてもおいしくて、み力的です。味そ汁やスープは具だくさんで野菜もたっぷり入っています。白いとうもろこしが給食にでたときは、おどろきでした。それも境町の農家の人が作ったものだそうです。とつてもあまくておいしかったです。「道の駅さかい」ではん売しているという説明もあり、町で作られていることを知る機会となりました。ぼくは「メイシヤントン」のとんじるや「さしま茶」を使ったパンも大好きです。

二つ目は「学習」です。学校では「英語学習」がさかんで、英語の先生がたくさんいます。英語の先生はいつも元気に英語であいさつをしてくれたり、大きな声でわかりやすく発音を教えてくれたりします。だからぼくは英語のじゆ業がとても楽しみです。夏にはイングリッschussamarskoolもあり、ぼくは昨年さん加しました。五年生になったら、イングリッschussamarskoolにもさん加したいです。英語をしつかり勉強して、お姉ちゃんもさん加した、境町で行われている「アルゼンチンはけん事業」などにもさん加したいと思いました。それから三つ目は「体験」です。五・六年生になると「元氣っ子クラブ」という活動もあり、夏はキャンプ、秋には山登り、冬はスキーなどの体験ができたり、境町の他の小学校のお友達と出会えたりといういろいろなことを体験できる機会があります。

す。ぼくのお兄ちゃんとお姉ちゃんは「元氣っ子クラブ」にさん加してキャンプもスキーもとても楽しかったし、また行きたいと言っていました。

「食べ物」も「学ぶ機会」も「いろいろな体験」もあたえてくれる「境町」。ぼくの自まんの町です。ぼくは、この町がぼくたち子どもにも、大人にも、ぼくのおじいちゃんやおばあちゃんのような高れい者にも「やさしい町」であることを望んでいます。

いつかぼくの「ふるさと」になる「境町」。これからもたくさん自まんできるすてきな町でありますように。

水がわくまち水戸

茨城大学教育学部附属小学校 五年 海老根 理 咲

水戸市は地名に「水」がつくように、水に由来する場所がたくさんあります。その中で水戸市のわき水について紹介します。

水戸市にはわき水の出るみ力的な場所が数多くあります。まず、五軒町洗心泉というわき水です。ここは、がけから少しずつ水がわき出ている、太郎池という大きな池にそそがれています。そのわき水の様子に心が洗われ私たちの心を落ちつかせてくれます。

次に、八幡町の神明宮という小さな神社のほりにある神明水のわき水です。その昔、八幡宮に参拝する人はこのわき水で身を清めたそうです。その名の通りわき水の池はとても

澄んで清らかです。このわき水はかつて地域の生活用水として、飲み水、洗たく、農作物や農具を洗ったりと広く利用されてきました。わき水に集まって地域の人々が談笑しながら交流をはかっていたと思うと、わき水の歴史を感じ、わき水は人と人とのつながりに大きく関わっていると思います。

一月のある寒い朝、私はわき水の水温を計ってみました。洗心泉は十五度、神明水は十七度もありました。特に神明水はわき水の池から湿気が立ちこめて、辺り一面が温泉のようでした。このように、わき水は寒い冬でも水温が高いのです。その日は外気の気温がとても低く霜柱が立つほど寒い日でしたが、わき水のおかげで私の心は温泉のようにぽかぽか温かくなりました。

最後に、笠原町の笠原水源です。その昔江戸時代の水戸の下町は井戸水が悪い所が多く、町民は飲み水に大変困っていました。時の水戸藩藩主徳川光圀が、人々にきれいな飲み水を送るためにこのわき水を集めて作ったのが笠原水道です。笠原水源は今でもたくさんわき水が出てきれいにして飲むようにしており、大きなやかんやポリタンクを持って水をくみにくる地域の人々が絶えません。

「この水で入れるコーヒーはとってもおいしいのよ。」と、水をくみにきていた方が私に教えてくれました。校外学習で老舗和菓子店をインタビューした時も、ようかんを作る時にはたっぷりの水戸の水が必要だとお店の方がお話ししてくださいました。おいしい食べ物やお料理が味わえるのも、おいしい水のおかげだと改めて気づきました。

わき水から水道水を作った先人の知恵と技術のお陰で、私

たちの生活は豊かになりました。豊富な水は植物生育や食物栽培にも役立っています。わき水には私たちの心を落ちつかせる不思議な力があります。わき水は人が集まるみ力的な力と、人と人をつなげる心の力があります。わき水は縁の下力持ちです。これからもわき水に感謝して大切に守っていきたいです。私はたくさんわき水がある水戸を誇りに思うし、水がわくまち水戸が大好きです。

オツシヤイナー、石岡へ！

石岡市立南小学校 五年 塚 ひなた

何百人もの人や大きな獅子、何十台も連なる山車が見える景色。たいこや笛、鐘の音色。

「オツシヤイナー！」

「それ、それ、それ、〇〇〇！」

と元気なかけ声。たくさん屋台から香る、おいしそうなおい：書き出すと止まらないくらい石岡のおまつりが大好きで私の自慢です。その中でも、特にすごいと思っている自慢が三つあります。

一つ目は、石岡のおまつりは「関東三大祭」だということです。関東にはたくさんのお祭りがありますが、その中の三つのうちの一つに選ばれていることは、とてもほこらしく思います。私の町内には獅子があり、お祭りの一か月前になるとたいこの練習が始まります。お祭りの日が近づくとつれて、この自慢のお祭りを成功させたいという気持ちが強くなり、

上手な人のたたき方をお手本にして、練習に力が入ります。

二つ目は、石岡のおまつりは九月に三日間行われるうち、一日は雨が降ることです。三年生の時の総合の授業の時間に、石岡のおまつりにくわしい先生が来てくれて、

「石岡のおまつりの本当の名前は、常陸國總社宮例大祭と
いって、五穀豊穰を願って始まったんだよ。」

と教えてくれました。石岡市は自然が豊かで、梨や柿、栗などの果物の宝庫です。私は五穀豊穰の神様が、恵みの雨を降らせてくれているのだと思います。

三つ目は、歴史あるお祭りだということです。始まりは古代からとされています。その後、今から約二百七十年前に奉納相撲が始まり、明治時代から出し物が街なかを練り歩く今のスタイルになったそうです。母に明治時代はいつ頃かと聞くと、

「今から百年以上前で、ひなたのおじいちゃんのおじいちゃんが生まれた頃だよ。」

と教えてくれました。それを聞いてびっくりしました。そんなにも前から受けつがれているなんて、すごいと思いませんか？

ここで、一つぎ問。なぜ石岡のおまつりは、こんなにも長く続けられているのでしょうか。五穀豊穰を願って？ ほかにも理由があると思います。それは、みんなが石岡のおまつりが大好きだから。

石岡のおまつりにはたくさんの魅力があるのに、石岡市の人口は年々減ってきています。もちろん見るのも楽しいお祭りですが、他都道府県、他市町村のみなさん、「石岡市にオッ

シャイナ！」私達といっしょにお祝いしましょう。私はこれからの参加して、大好きな石岡のおまつりを未来に受けついでいきたいです。

茨城と言えは：

つくば市立荃崎第二小学校 五年 榎 本 圭 汰

「都道府県&市区町村魅力度ランキング」七年連続最下位の県が、ぼくの住む茨城県だ。生まれ育った県の魅力度が最下位なんて、なんだか気分が悪いなあと思った。そこで、家族に、茨城と言えは何が思いつくか聞いてみることにした。

中学生の兄は、

「茨城と言えは、日本三大名瀑の一つ、袋田の滝だろう。」

うん、確かに。袋田の滝は二年前に家族で行った時、その迫力のすごさに驚かされたのを覚えている。春、夏、秋は季節によって水量も違うし、冬は凍結した神秘的な滝を見ることが出来る。四季折々いろんな姿を見せてくれる袋田の滝は、茨城で絶対行くべき観光名所の一つだと思う。

お父さんは、

「茨城と言えは、ほしいも、メロン、栗、小玉すいか、白菜、梨、あんこう、霞ヶ浦、つくば山、芝、ヤンキー、だっぺ：」次から次から、出てくる、出てくる。そう、ぼくのお父さんは一才の時から茨城で育っているから、「茨城と言えは：」がいくつでも思いつくらしい。ぼくは、茨城弁がよく分からないことも多いけど、お父さんは茨城弁で話す近所のおじい

ちゃん達とも、ふつうに話ができしてしまう。そんな中でよく出てくる言葉は、確かに「だっぺ」だ。なんか怒ってる時とかに「だっぺ」を使われると、不思議とほんわかした気持ちになる。これも茨城弁の良さなんだろうな。

お母さんは、

「茨城と言えば、絶対に納豆！」

そう、うちのお母さんは納豆大好き人間。毎朝必ず納豆を食べないと、一日元気に過ごせないらしい。わが家では、冷蔵庫に納豆が一個しか残っていない時は、絶対お母さんのものと決まっている。納豆ご飯だけじゃなくて、ラーメンとかうどんとかにも、何でものせちゃうのだ。そのおかげかどうかは知らないけど、お母さんは、生まれてから一度もインフルエンザにかかったことがないのが自慢だ。ぼくと兄とお父さんの三人がかかったことが何回もあったけど、お母さんは絶対にかからない。納豆効果が出ているおかげなのかな？と思ったりもする。

ぼくは、「茨城と言えば…」って言えるほど、観光名所も茨城弁も名産品も知らないけど、ぼくにとっては、大切なものがいっぱいある場所かな。家族、友達、サッカーの仲間。裏の畑の散歩道、クワガタやカブト虫が取れる森や林。どれもこれも全てぼくの大切な宝物。全国の魅力度ランキングなんて最下位だっていい。ぼくにとっては、ナンバーワンの県だから。

わたしの町のいいところ

坂東市立岩井第二小学校 五年 落合 ひなた

「大丈夫よ。心配せんで大丈夫。」が口ぐせのひいばあちゃん、同じ市内のちがう地区に一人で住んでいる。90歳近いが、ひざが痛い以外は、とても元気だ。

おばあちゃん達が交替で様子を見にいつているが、畑仕事から家のことまで何でも一人でこなしている。しかし、時にビニールハウスの修理や水道管の故障など一人では解決できない、困ったことが起きる。

そんな時すぐかけつけてくれるのが、むかいのうちに住む山口のおじさんだ。

「困った時は頼ってよ」が口ぐせで、すぐ遠慮してしまうひいばあちゃんの、小さなSOSを聞き逃さず、かけつけてくれる。

おじさんとはつても器用で水道管の修理だって、ビニールシートの張り替えだって、なんでも一人でこなしてしまう。しかも早くて、丁寧な仕上がりがだ。

「いつもわるいね…」と申し訳なさそうなひいばあちゃんに、「何言ってるの。お互い様なんだから、気にしないでよ。がははは」と、大きな声で豪快に笑いとばす姿はカッコいい。まさに正義のヒーローみたいだ。

「ねー、山口のおじさんって正義のヒーローみたいだね」というと、おじさんは「んなことねーよ。」と照れながら、「この地区はお年寄りだけで住んでいる家が多いだろ？だから、

できる人が手を貸すのが当たり前なんだよ。おれだって歳を取ったら助けてもらうことになるんだからさ。お互い様なんだよ。がははは」と、また豪快に笑って言った。

そのおじさんの横顔を見ながら「あっ！そうか」と気が付いた。

私の町のみ力——それは形がない、目には見えないものだから伝わりにくいけれど、大切に温かいもの：「助け合いの心」なんだ。困っている人にできる人が自然と手を貸すことのできる「助け合いの心」が根付いた、優しさあふれる坂東市が私は大好きだ。

自然豊かなぼくのまち

稲敷市立江戸崎小学校 五年 酒 井 優太朗

ぼくが住んでいる稲敷市は、大きい建物がありません。大きな田が広がり、霞ヶ浦と利根川にはさまれています。自然が豊かです。そんなぼくのふるさとが大好きです。

以前、東京や大阪に行ったときに、ぼくはびっくりしました。ぼくが住んでいる所が田舎なんだと思いました。

でも、ぼくのふるさとには都会に負けないいいところがいっぱいあります。

それは、自然です。

春には、たくさん桜が咲きほこります。風にゆれて、花びらがまいます。とてもきれいです。それに、新学期が始まるぞとわくわくさせてくれます。おばあちゃんの畑には、たく

さんの作物の芽が出てきます。かわいいなと思います。また、ゴールデンウィークには、田植えを家族みんなでやります。自分達が食べる物を、自分達の手で育てる事はとても楽しいし、おもしろいです。田植えをした後には、きまつて自分達で作ったお米でおにぎりを作り、食べます。作業をした後に食べるおにぎりは、最高です。

夏になると、稲も成長し風にゆられて緑がとてもきれいです。梅雨の時期には、空が灰色でも稲の緑色がとてもすずやかで、自然が作る色彩のすばらしさに、改めてきれいだなと思います。

そして、夏といえば昆虫です。ぼくも虫が大好きです。家にある栗の木では、カブトムシやクワガタをつかまえます。それにきれいなホタルもいます。数が少なくなっているので、増えるように願っています。ホタルは、きれいな水辺を好むので、総合の学習で学んだ自分達にできる事を取り組んでいきたいと思います。「ミイーン。ミイーン。」や「ジーー。ジーー。」というちよつとうるさいけど夏らしいせみの鳴き声も大好きです。

それに、秋には、学校の帰り道にどんぐりや木の葉が落ちていきます。それを拾って友達と遊ぶのも楽しいです。秋には、おじいちゃんの田においているお米が実ります。甘くてとてもおいしいです。自然の豊かさとはすばらしさを強く感じます。

このおいしいお米を、多くの人に食べてほしいと思います。最後に、冬の事です。雪が降ると畑につながる坂で、雪すべりをします。兄といっしょに雪だるまも作ります。手が赤く、ビリビリします。でも一面が真白でとてもきれいです。

また、お正月の前には、おもちを機械で作ります。かまどで、火をおこしてもち米をたくのが、おもしろいです。もち米がたけるにおいは、食欲をそそるともいいにおいです。ぼくのまちには大きなビルや電車は、ありません。けれど豊かな大自然があります。四季折々にいろいろな自然の顔を見せ、ぼく達に多くの恵みと思い出を与えてくれます。そんな自然豊かなこのまちが、大好きです。

小学校、廃校、そして未来

つくば市立島名小学校 六年 岩 田 明香里

関東平野にそびえ立つ筑波山。麓には廃校になった小学校が点在する。今年、このうち2校の新たな利用が開始される。このニュースは明るく私の耳に届いた。

今年の夏休み、私は社会の自由研究で、2018年に新しく秀峰筑波義務教育学校として統合された7つの小学校を調べた。

夏真っ盛り、セミの鳴き声が響く中、この7つの廃校を訪れた時のことはよく覚えている。青々と広がる田、さえぎるもののない筑波山。小高い丘に立つ校舎はお城のようだった。近隣の生活の音。夏休みが終われば、また児童の声がしそうだと感じたのは、校舎の中がそのまま残されていたからだだろう。下駄箱の名札、英語のポスター、保健室のグレーのロッカー、運動会の優勝旗……。想い出をそのまま残して離れたのだろう。学校丸ごとタイムカプセルのように思えた。私は以

前、旅先の四国で改装した廃校に宿泊した経験から、これらの小学校を何かに使うことができないか、思いを巡らせていた。

そんな時、とうとう2校が新しい役目を担うと知った。菅間小学校は、高齢者や障害者を支援するロボットの開発拠点として整備された。小田小学校は歴史研究会や子供向け科学教室などの交流拠点として運営される。新しい目線で人々の興味が集まるのではないか。地域の人は親しみ深い旧小学校のことを手伝いたいと考えるのではないか。皆の交流が盛んになり地域はきつと活性化する。これは魅力ある活動だと思う。この先が楽しみだ。

それにしても、これまでの私の廃校のイメージは、過疎地の小さな学校だったので、この7つの廃校の大きさには驚いた。つくばエクスプレス沿線にあり、人口増加の著しい私の通う小学校を超える規模のものもあった。廃校に大きさは関係ないのだ。私の小学校もずっと今のままの姿ではないと気が付かされた。

私は毎日、何の不自由もなく小学校に通ってきた。しかし、駅付近に現在建設中の小学校に通う方が近い。2023年にこちらが開校されれば、友達の弟や妹は新しい小学校に通うだろう。昔からの立派な家が並ぶエリアは、子供の数が減少している。ずっと先には私の小学校は新しい小学校に統合されるのだろうか。2015年、私の入学時に増築された。2017年にはプレハブ校舎を建て児童増加に対応してきた。この先はどうだろう。

大切なランドセルで初めて通った自分の小学校は、その場

にあつて欲しい。先生や友達との想い出もあちこちに見えるのだから。私はまもなく卒業し、この校舎を離れる。しかし、ここが私の小学校であることは絶対に変わらない。周囲の変化を意識しよう。自分に何ができるか考えよう。これが大好きな故郷の魅力を見つめ直し、地域をより良くすることにながると信じている。

ぼくの達の町の自慢できる風景

土浦市立土浦第五中学校 七年 尾 鷲 夏 海

ぼくの住むこの町には、自慢できる風景がたくさんあります。その中でも、ぼくが特に良いと思う風景二つを紹介しましょう。

一つ目は、ぼくの通う土浦第五中学校の音楽室から見るこ
とができる広大な森林です。音楽室は、校舎の三階の最も
しにあるので、森林を普通では見られない視点から見るこ
ができます。さらに、天気が良いければ、日に当たって明る
かがやく木々と、雲一つ無い美しい空、遠くにぼんやりとあ
る山を一望することができます。ぼくが初めて音楽室に入っ
たとき、ぼくはその美しい景色に言葉を失いました。まさか、
こんな身近な場所にこんなにも景色の良い所があったのか、
とおどろきもしました。その日から、音楽室に行く時間が待
ち遠しくなりました。また、その風景はその日の天気によつ
て、様々な姿を見せてくれました。晴天の日はもちろん、雨
の日や風の吹く日も、そこには自然の広大な景色が広がって

いました。そのあまりの美しさに、いつそのことここに住み
ついてしまおうと思つてしまいました。こんな自然の風景も、
自然が豊かな茨城だからこそ見ることができたのだと思いま
す。

二つ目は、つくば山から見るができる土浦の町の夜景
です。つくば山にある、とある駐車場で、その景色は見るこ
とができます。数々の明かりが町全体に広がっていて、中に
は点滅したり、明かりが動いているものもありました。それ
は正に、町全体にイルミネーションがほどこされているかの
ような光景でした。ぼくがその光景を目の当たりにしたのは、
夏休み中、家族でつくば山に星の観察をしに行った時でした。
その駐車場で上を向いて星の観察をしていて、ふと前方を向
いた時、ぼくはその景色を発見しました。お父さんに、夜景
が見える、と行く前に教えてもらいましたが、まさかこれほ
どに美しい夜景が広がっているとは思いませんでした。
ぼくはその時、「おお」と、思わず声をもらしました。そ
れから、ぼくは星の観察そっちのけでその夜景をながまし
た。その夜景には、どこか町の人々の生活感すら感じられま
した。ぼくは、あの中でたくさんの人々が生活していること、
そしてまた、自分もその中で生活している一人なのだと思
感しました。自然の風景も良いけれど、やはり、このような少
し都会的な景色もまた良いと思いました。

ぼく達の住む土浦の町には、このような、自然を感じる風
景と、都会的な風景がたくさんあります。そんな風景は、自
然が豊かで、なおかつ工業も発展していて、都会的な一面も
ある茨城県でしか見られない、貴重な風景だと思います。で

も、工業がさらに発展して、森林ばっさいが行われてしまえば、自然が減少してしまうし、かといって、森林ばっさいを行わなければ、工業が発展しにくくなってしまいます。環境問題は、今や世界中で問題になっています。このまま放っておけば、世界中の森林が失われてしまうでしょう。そうなれば、当然この町の自然も失われるでしょう。だから、ぼくは、自然を守るためにできることをしようと思いました。そして、ぼくは、自然と都会的な両方の美しい風景が、この町に存在し続けてほしいと願っています。

筑波山の素敵なところ

土浦日本大学中等教育学校 一年 河野千畝

僕は茨城県に住んでいます。魅力度ワースト一位を誇る茨城県です。でも僕は茨城県が大好きです。茨城の有名な場所といえば霞ヶ浦や筑波山、大洗の海など、自然が豊かな場所が多いと思いますが、皆さんは茨城といえばどのような場所を思い浮かべますか？僕は今回、特に大好きな筑波山の知られざる魅力を紹介したいと思います。

筑波山にはたくさんさんの登山道があり、本格的な登山を楽しむ人向けのコースはもちろん、幼稚園生でも歩けるようなコースもあります。茨城で育った人は、一度は遠足などで登った事があるはずです。僕は、たくさんあるコースの中でも、つつじヶ丘から筑波山の神社裏まで下るコースを紹介します。この2つの場所はバスでつながっているので、下って

きた後の帰りの登り路はバスで向かうこともできます。

僕が登山道なのに、登らず下ってくるコースをお勧めするのは理由があります。それは、気軽に散歩を楽しむ感覚で、筑波山の植生を観察することに集中できるからです。

春、ゴールデンウィークの頃にこのコースを歩くと、まだ森の中はひんやりとしていて、湿っている空気に包まれています。湿った土をイノシシが掘り返した跡が見られます。植物の根を食べるためです。ふかふかの腐葉土には、植物たちの種が落ちてそれぞれ自分勝手な場所で芽吹き始めています。もみの木や杉の木の小さな芽が、木漏れ日の小さな陽だまりの中に顔を出しています。

夏、薄暗い木々の中に入ると植物の葉が多くなったことを感じます。森の中は木々の良い香りがしますが、ムツとする湿気に包まれています。あたりは春よりも緑が濃くなり、地上に落ちるわずかな日光をめぐって、あるいは居心地の良い日陰をめぐって、静かな植物の戦いが繰り広げられています。登山道の途中に僕の背丈ほどもある、お気に入りの大きな石があります。その石は平らな面がむき出しになっています。春、その岩には杉苔が少し生えていてミニチュアの妖精が住む森のようです。それが夏にはその杉苔が岩を一面覆い、ふかふかのマットのようになります。僕はついついそのマットに触って感触を楽しみ、笑顔になってしまいます。

秋になると、日光の角度が変わり陽だまりの位置が変わります。秋の光は柔らかく、オレンジ色が強くなるような気がします。広葉樹は葉を落とし、森の中は明るく見通しがよくなります。もちろん紅葉も美しいです。しっとりとした倒木

の上に、一枚の赤い葉が乗っている様子は、言葉にできないほどきれいです。ふかふかの緑のじゆうたんに覆われているようだったあの大きな岩の杉苔は、影も杉もなくなり、その代わりにゼニゴケが三分の一ぐらい岩の表面を覆っています。これが冬になると、ほぼ一面ゼニゴケに覆われてしまいます。

冬は、ちらほらと緑はあるものの生き物の気配がなくなり、僕らの吐く息は白く、ひっそりとした森の中は静かです。でも、植物は種を落とし、生き物たちもいなくなつたわけではなく気配を消してそれぞれ隠れています。

こんな風に筑波山では季節によって風景や植物が変わります。何度も同じ道を通り、同じ場所で立ち止まってあたりを見回すと、ドラマチックな変化を楽しめます。そしてそれが毎年同じとは限らないところも面白いところです。

もし、筑波山ってどんな山なのかな、登山だなんて考えただけでも大変そうだな、と思う人も、下るコースはお勧めです。周りをゆつくり楽しみながら、植物の季節による変化を見てみてください。

私の大好きな大洗の海

大洗町立南中学校 一年 平 田 叶 音

シーン…と静まり返つた団地の中、私は一人、ベランダに立っていた。ベランダから見える大洗の海を眺め、相変わらず綺麗だな、などと考えていた。サーッと心地よい風が吹き

抜けるとともに、そっと目を閉じると、様々な思い出が蘇ってきた。

五年生の頃。海にて、漁業体験が行われた。船に乗り、海へと出発。漁業がどのように行われているのか、詳しく知らなかつたため、初めて見る物が多く、驚いたのを覚えている。たくさんのしらすが捕れた中、一匹、鮫が混じっていた。小さい鮫でありながら、あまり目の前で見たことがなく、かなり興奮した。しかも、触ることもできて、本当に大満足だった。カゴいっぱい捕れたばかりのしらすを食べることもできた。海の塩味が良い味つけとなり、とても美味しかった。大洗と言えば、やはりしらすなどの水産物。大洗だからこそ体験ができて、大洗に住んでいて良かったと思つた。

ほかに、大洗に住んでいて良かったと感じたことがある。それは、洋上体験だ。洋上体験では、フェリーに乗って北海道へ行き、様々な体験をしながら四泊五日の間過ごす、ということをした。大倉山スキージャンプ競技場に行つたり、小樽市を散策したり、体験したことのない日々、毎日が充実していた。さらに、私は南小学校の児童だったが、洋上体験には大洗小学校の児童たちと一緒に行ったため、新たに数人の友達ができた。これも、大洗だからこそその体験であり、大洗に住んでいて良かったと思うし、大洗の海が大好きになつたきっかけでもある。

そんな私の大好きな海だが、もちろん悪い点もある。それはいくつがあるだろうが、私が一番残念に思うのは、やはり砂浜にたくさん落ちているごみだろう。海に行くと毎回ごみがたくさん落ちていて、こういうところはいけないな、と思

う。ごみのない綺麗な海になってほしいとつくづく思う。そんな、ごみがたくさん落ちている海であるが、もちろん何も取り組みをしていない訳ではない。何もしていないとなると、今ごろごみだらけになっていることだろう。そうならないという事は、しっかりと地域の人たちによる取り組みがなされている。私もそれに参加している。まず、毎年行われているクリーンアップ大洗。海のごみ拾い、町のごみ拾い、草刈りなどをする。そこで私も海のごみ拾いに毎年参加している。クリーンアップを行うと、海が綺麗になり、達成感を得られる。このままずっと綺麗でいてほしいと思う。ほかに私は、小学校の総合の時間にごみのポイ捨てをやめるように呼びかけるポスターを作った。そのポスターは学校の門などに貼った。その結果、少しでありながらもごみが減ったように感じる。

カタカタと洗濯物が風に揺れる音で我に返る。ただ外の空気に触れようと思っただけに、かなりの時間出ていたままだったなと考える。ゆっくりと体の向きを変え、部屋へと戻る。私は大洗が大好きだ。海が大好きだ。ずっと、綺麗に守っていききたい。そう思いながら。

素晴らしき自分の地域

石岡市立府中中学校 二年 勝 倉 心 美

私は、石岡市行里川というところに住んでいます。石岡の一番端の方です。

行里川は昔から古く住んでいる人が多い地域です。なので皆んな顔見知りの人が多く、近所を歩いていると「ここちゃん」と声をかけられたり、話をする事が多いです。

行里川は地域の行事が他の地域と比べて、とても多く色々な行事が行われています。

夏に地域全体の夏祭りがあります。準備もお店も全部地域の人達でやります。かき氷、焼き鳥、焼きそば、ゲーム、カラオケなどその他色々なお店が出て、おじいちゃん、おばあちゃんから小さい子供達までが集まり、地域全体がとても賑やかに盛り上がります。私も小さい頃から楽しみにしている行事です。

次に一番大事な行事です。十一月に防災訓練があります。この訓練は東日本大震災後に始められました。震災の時、私はまだ幼く何が起こっているのかさえ分からず、ただ怖かった記憶しかありません。自分の家族も周りの人達も突然のことで自分の事で精一杯だったかと思います。震災があり皆さんで助け合う大事さを知り、その後、様々な所で防災対策、訓練が行われる様になりました。おそらくあの震災がなければこの様な訓練は始められなかったと思います。

私達の地域では、全世帯が役割分担され、訓練前には何度

も打ち合せなどがあるそうです。当日はサイレンが鳴り、それを合図に出来る限り全世帯全員が参加する事になっていきます。消防車も来て、炊き出し、救護、消火など、実際に災害が起きたと想定しての大変大掛かりな訓練が行われます。市役所の防災対策課、消防署の方々から防災対策やAED指導を受けたりもします。地域の人達は、災害が起きたとき、自分達だけではなく、地域全体で助け合おうという思いで訓練しています。私は、この様な訓練がなければ、何かあったときに自分の事しか考えられなかったと思います。今では、何かあった時は近所の人達と協力して助け合いたいと思う様になりました。地域全体でこの様なことが出来るのは、大変良い事だと思います。

その他に不動尊、お墓を大事にする事や、草刈り、美化活動など様々な事があります。まだ子供の私に参加できる行事は少ないですが、大人の方々がずっと大事に行い、引き継がれています。いずれ私が大人になった時に少しでも地域に協力していきたいと思っています。

私の住む行里川は、皆んなで助け合い、地域や行事を守り続ける素晴らしい地域です。

今の町、理想の町

笠間市立岩間中学校 二年 伊勢山 咲花

私が住んでいる町では、あいさつが盛んだったり、地域のためにボランティア活動を積極的に行っています。とても居心地が良く住みやすいです。しかし、生活していて気になる点、そして改善点を見つけることがあります。

一つ目は、ポイ捨てされたゴミが多いことです。自転車で登下校している時、家族と車で出かける時、ランニングしている時など、毎回と言って良いほどゴミを見かけます。ゴミを見かける場所は特に歩道沿いが多いです。種類は、食べ終わったコンビニ弁当のゴミ、飲み終わったペットボトルのゴミ、使用済みのティッシュのゴミなどが多いです。これらの場所やゴミの種類からして、コンビニで買った飲食物を外や車の中で食べ、その後通る道にそのゴミを捨てるといふパターンが多いと私は考えます。このままでは、ゴミがカラスに食い荒らされている、景観が悪い町になってしまいます。そこで私は、ゴミを捨ててはいけない場所にゴミを捨ててしまおう、社会の常識を守れない人が日常にたくさんいるということ、常に身近にゴミを捨てる場所が無いということに気がきました。私が思う理想の町は、常に身近にゴミを捨てる環境がある町です。そのためにしたほうが良いと思うことは、ポイ捨て禁止の呼びかけと同じくらい、マイゴミ袋の持ち運びの呼びかけをすることです。そうすれば、道などにゴミを捨てるより、身近にゴミを捨てる所があると気付けると思います。

ます。他にも、ゴミを捨てるとしかけが作動するゴミ箱の設置や、分別の手間が省けるゴミ箱の開発などをすれば、積極的にゴミをゴミ箱に捨てる人が増えると思います。

二つ目は、周りから見て、活気がないことです。私の住んでいる町は、ボランティアや交流の場をもっているけど、他の市や町から見れば、ただの小さな活動に見えると思います。もっと魅力あふれる活力に満ちた町にするためには、自らのアピールが必要だと考えました。例えば、町のクリーン作戦の参加者を沢山招き、参加賞として笠間で有名な栗の食品をあげたりします。そうすれば町はきれいになるし、町のことを知ってくれる人が増えます。また、地域のおいしい食べ物も知ってもらおうことで、また来たいな思ってくれる人を増やすこともできます。このように、町のためになることをしつつ、町のアピールにもつながるようなイベントを積極的に行えば、いずれ魅力にあふれた活気のある町になれると思います。

先程あげた二点は、上手くいったら良い町へ近づけるけれど、失敗すれば費用の無駄遣いとなってしまいます。なので地域の人々が話し合いに話し合いを積んで、より良い町へ進める安全なルートを進めれば良いと思います。さらにそこから、工夫をこらせば、一段と良い町を築けると思います。いつかこの町がたくさんの人に支持される素晴らしい町になれるように、私達もできることから取り組むことが大事だと気付きました。

ふるさと再発見

取手市立取手第一中学校 二年 飯塚美衣

私が住んでいる「小堀」の魅力ってなんだろう？作文のテーマを見た時、そう考えました。私は生まれてからずっと小堀に住んでいるのに、こういうことを考えたのは初めてでした。今から、私が思う小堀の魅力について紹介していきたいと思っています。

まず最初に思いついたのが、自然が豊かなところです。すぐ近くに利根川や古利根沼があり、野生の動物が多く見られます。例えばきじ、うさぎ、いたちなどがいます。また、市の鳥に認定されているフクロウとカワセミも生息しています。特にカワセミは、小さい頃からおじいちゃんの家でよく見かけていて、背中の青色がともきれいだっただのをよく覚えています。

次に思い出されたのは、小堀で毎年行われている水神社祭礼というお祭りです。このお祭りは、川を渡るときに水の事故で亡くなった人達を弔うために建てられた水神社で2日間に行われていきます。1日目の宵宮には出店もださず、2日目は、神様が乗ったおみこしを皆でかつぎ、災いがおこらないよう祈念しながら地域全体を回ります。私は毎年このお祭りに参加していますが、いつ行っても楽しくて私はこのお祭りが大好きです。

三つ目は、地域の人同士のつながりが深いところです。小

堀は、利根川を工事した際に飛び地となり、小さな集落になっ
てしまいました。でも、その分地域の人同士のつながりが深
くなっていて、私が登校する時にはいつも何人かの方が明
るく声をかけてくださる、温かい集落です。広くて建物が多
く、あいさつを交わす事が少ない都会よりもとても魅力的だ
と思います。また、長生きのお年寄が多く、名前を聞かれた
時には「松山」「加平」などといった、屋号を言う時が多い
です。私は、この屋号が小堀だけで伝わる暗号みたいでとて
も好きです。

四つ目は、小堀の渡しについてです。小堀の渡しは、利根
川を渡って、小堀と市内中心部を結ぶ船のことです。今は、
小中学生はバスで登下校していますが、昔はこの船を利用し
て通学していたそうです。先ほども紹介した通り、小堀は飛
び地なので、交通の不便を感じた地域住民によって、大正三
年に渡し船を出したのがこの船の始まりとされています。平
成二十六年に運航開始百周年を迎えた小堀の渡しは、今も変
わらず地域住民に愛されています。

五つ目は、節分です。小堀では、毎年節分の日には集会所
に集まり、その年の年男・年女の人達や、役員の方々が豆や
カップラーメン、お菓子やみかんなどの果物をまいてくださ
り、それをみんなで拾い合います。その年によって、まかれ
るものも違ってくるので毎年とても楽しみにしています。ま
た、参加するのは住民だけではなく、元々小堀に住んでいた
人や、住民の親戚も来るので、大勢の人が集まります。たく
さんの人達と交流できるこの行事が、私は大好きです。

改めて小堀の魅力について考えてみて、ますます小堀が好

きになりました。今は、住む人も減り、子供も少なくなっ
てきているので、今後は私達若い世代が小堀を盛り上げていき
たいと思います。

私の町「鹿嶋」

鹿嶋市立大野中学校 二年 萩原海音

私の町の自慢といえば鹿島アントラーズです。Jリーグや
カップ戦などでたくさん優勝していて、日本代表にも多くの
選手を出しているチームです。鹿嶋市内の小・中学校には選
手の方々が学校訪問に来てくださり、サッカーやレクリエー
ションでふれあうこともできます。アントラーズとのふれあ
いで思い出に残っているのは、小学六年生の時に、昌子源選
手と安部裕葵選手が学校に来てくださったことです。二人の
選手と男子はサッカー、女子はドッチボールを一緒にプレイ
しました。私は安部選手と同じチームになったのですが、相
手にボールをぶつけることができたときにハイタッチをして
いただいたことを今でもよく覚えています。普段は会えない
有名な選手達と楽しい時間が過ごせる、このような貴重な体
験をさせていただいて鹿嶋市に住んでとてもよかったです思
います。

アントラーズのスタジアムもとても大きくきれいで自慢
の一つです。二〇〇二年にはワールドカップの試合が行わ
れ、又来年のオリンピックでも試合が行われる予定です。ア
ントラーズの試合があると色々な県からたくさんの方が訪れ

ます。それから試合がない日にはスタンドを走ったりウォーキングしたりできます。母の知人は、東京で行われるマラソン大会に出場するため、トレーニングとしてスタジアムのコースを何周も走っていたそうです。他にも健康のためや社会人スポーツの練習として走っている人もいると聞きました。

次に、私の町の素敵な場所は、鹿島神宮です。神宮の入口には大鳥居があります。もともとは石でできていたのですが、東日本大震災で倒れてしまい、神宮の中にある木を使い新しく作り直されました。大きくてきれいでとても迫力があります。坂の途中にはとても水がきれいな御手洗池や地震を起こすナマズの頭を押さえていると伝えられる要石などがあります。また、鹿園にはたくさん鹿がいて、エサやりなどのふれあいができます。その他にもいろいろな見所があり、全て見るのは大変です。しかし、たくさん緑の中を歩くのは空気が景色もよくてとても気持ちがいいです。

そして、もう一つの魅力は自然がたくさんあることです。海では海水浴や潮干狩りが楽しめます。そして鹿島だということおしいたこがとれます。北浦という湖もあり、釣りをする人がたくさんきます。また、北浦には鹿島神宮の東の一之鳥居があります。湖の底から高さが十八・五メートルあり、水上鳥居としては日本で一番高い鳥居です。湖の中に立っている赤い大きな鳥居はとても美しいです。北浦では花火大会も行われます。花火と鳥居を一緒に見るのはとてもきれいで感動的でした。

緑もたくさんあり、城山公園やはまなす公園など緑と遊具

がある公園があります。城山公園では春になるとたくさん桜が咲きとてもきれいです。はまなす公園には池や木々だけでなく、展望塔やプラネタリウムもあります。中でも私が好きなのは、ローラーズベリ台です。長い距離を一気に下っていくのはとても気持ちがよくて、小学生の頃何回も繰り返し滑りました。

私の住む鹿嶋市は歴史的な場所や自然がたくさんあり、とても住みやすい町です。この地域の人は、みんな優しく声をかけてくれたりあいさつをしてくれたりします。都会のように大きなお店などがあつたらいいなと思うときもあるけれど、みんな優しく自然がたくさんある鹿嶋市が、私はとても大好きです。これからもそんな町が続くように、自分から元氣にあいさつをしたり、ごみ拾いなどをして町をきれいにしたりしていこうと思います。

私が暮らす町日立市について

日立市立平沢中学校 三年 柏 奈歩

私の住んでいる日立市は、茨城県の中でも県北に位置し、海と山に恵まれた自然豊かな町です。工業も盛んで世界的に有名な日立製作所の工場がたくさんあります。そして、日立市には、皆さんにぜひ紹介したい素敵な場所や自慢したいものがたくさんあります。

中でも私が一番に紹介したいのは「かみね動物園」です。かみね動物園には、たくさんのかわいらしい動物がいて、う

さぎやモルモット、へびを抱いたり、さるやヤギにエサをあげたり、たくさんの貴重な体験ができます。また、夏になると「夜の動物園」というイベントが毎年開催されていて、私も小さな頃から何回も行っています。昼間は見ることで、さきない動物たちの夜の様子を見ることができ、イベントに合わせて遊園地の乗り物が夜も動いているので多くの人たちにぎわっています。動物園の近くには、郷土博物館やかみねレジャーランドなど、小さな子供からお年寄りの方まで楽しく過ごせる施設がたくさんあります。

そして、日立市には山や海など自然が多くあることも魅力のひとつです。日立市の高台から見える太平洋はとても広く、港ではおいしい魚がとれ、夏には海水浴やサーフィンをするために他県からたくさんのお客が来ています。

また、日立市の花にもなっている桜が植えられている平和通りでは毎年さくらまつりが開催され、満開になった桜並木は見事な美しさです。以前さくらまつりに行った時、広島県から来たという方と出会ったことがあり、日立市のさくらがとても有名なことに驚きました。さくらまつりでは「常陸風流物」というユネスコ無形文化遺産に登録されているからくり人形の上演も行われています。

ほかにも日立市を考えると、シビックセンターや日立駅など、あまり見たことがないデザインの建物が多くあります。特に日立駅は、全国モダンな駅ランキングで二位を取ったとでもおしゃれな駅です。

日立市はとても大きな市ですが、近年、人口減少が大きな問題になっています。以前母が新聞の記事で国内の都市の人

口流出ランキングで日立市が8位だったと話していたことがあり、私はとても驚きました。日本の中で8位。そんなにも多くの人たちが日立を出ていってしまうことがとても悲しく思いました。

私が生まれる前、日立市内には百貨店があり、両親が若い頃の銀座通りは、たくさんのお店や映画館があり、日曜日など多くの人たちでにぎわっていたそうです。現在はほとんどのお店が閉店し、映画館も無くなってしまったので母は時々「日立の中心部は活気がなくなっただけでさみしくなった」と話しています。私自身は当時を知らませんが、人口流出が多いことと、母が言っている活気がなくなったことは関係があるのかもしれないと思いました。

私は自分が生まれ育った日立市が大好きです。素敵な場所や豊かな自然がありとても住みやすい町だと思うからです。でも、私から見た今の日立市は「活気のある町」とは少し違うような気がしました。閉店するお店を見ると「さみしくなった」という母の言葉が合っているように思えました。

私は今中学生ですが、元気がいっぱい日立市になれるように自分に何か出来ることはあるのか考えてみました。何度も考えましたが、今の自分にできることは勉強や部活をがんばることなのではないか、その中で様々なイベントに参加したりお手伝いをする事。今は自分自身のことをがんばることが大切なのではないかと思えました。私たちが学校生活をがんばることでこれからの日立市がもっと元気になってくれたら、と思いました。

笠間のいっぴい

笠間市立みなみ学園義務教育学校 九年 中 村 壮 汰

わたしの町の魅力というテーマを見て、最初に考えたのは自然でした。僕が今住んでいる所は、笠間の市内の方ではなく、市内から五キロほど離れた場所です。だから、家前には道路をはさんで田んぼがあり、すぐ裏は山になります。この時期になると昼間は虫の鳴き声がうるさいくらい聞こえてきます。そんな所に住んでいると、たくさんの自然を見つける事ができます。例えば、家の窓から見える景色は両側に林がありその真ん中に奥までずっと続く道路が見えます。そこに朝日が差し込むと、言葉で言い表せないほど綺麗な景色になり、とても気持ちが良い朝にしてくれます。このように自然に囲まれた笠間では、たくさんの素晴らしい景色があふれています。その中でも僕が一番好きな景色は、笠間のつつじ公園から見る景色です。

つつじ公園からは、笠間の市内が一望でき、笠間の絶景スポットナンバーワンといっても過言ではありません。さらに、春になるとつつじが咲きほこり、より綺麗な景色になります。初めて見た人は、感動で口が開いたままになってしまおうと思います。

次に考えたのが「食」でした。笠間といえば、いなりずしが有名です。笠間市は、日本三大稲荷の一つ笠間稲荷神社があります。稲荷神社といえばキツネ、キツネといえば油揚げという事で神社にちなんだ稲荷ずしが親しまれるようになって

たらしいです。笠間いなりの特徴はそば、くるみ、舞茸などの様々な具を使った変わり種いなり寿司という点です。とてもユニモアがあつておもしろいですよね。

最後に考えたのは、「建物」です。さきほど述べたとおり、笠間稲荷神社は日本三大稲荷の一つです。笠間稲荷神社の前の通りでは一年を通してたくさんのお祭りが開かれています。祭りが開かれると、通りにはたくさんの屋台がたち並び、にぎやかな雰囲気になります。お祭りの夜に、屋台の間を歩いていると、まるで別の世界に行っている様な気持ちになります。稲荷神社の中も、厳かな雰囲気があり、そこにいるだけでパワーがもらえる様な気がします。僕は一度、小学校の時、授業で写生をしに行つて建物をしっかりと見ましたが、柱はきれいな朱色で屋根は年季が入った淡い緑になっていて、とても風情が感じられる素晴らしい建物でした。庭には、白い砂利がいてあつてとてもきれいです。

このように、僕が住む町笠間には、良い所がたくさんあります。今までの僕は、自分の住んでいる所について考えたことがありませんでした。この作文をきっかけとして、自分の住んでいる地域の魅力を改めて考えてみたり調べてみたりして笠間の良さを再確認することができました。これからも、笠間の魅力を見つけていきたいです。

私の住んでいる田舎の魅力

筑西市立下館西中学校 三年 池 沢 果 倫

私の住んでいる町は、いわゆる「田舎」だと思う。大きな商業施設が近くにはないし、電車も一時間に一本しか来ない。見たせば田んぼや畑しかないし、夜になると街灯の光だけが光り、静かで暗い。言葉もなまっついているとも思う。しかし私はこの町が大好きだ。

生まれてから今までの十五年間、私はずっとこの町に住んでいる。その中で魅力を感じたことは、近所の人達がとても親切で優しいことだ。私は幼い頃から散歩や外で遊ぶことが大好きだった。母と一緒に近所の家にお邪魔した時や、回覧板を置きに行った時など、とても優しい笑顔で迎えてくれた。「大きくなったねえ。」「よく自転車に乗って遊んでいたよね。」と声を掛けてもらうこともある。そのような時、私はいつも心が温かくなる。私の事を気にかけてくれると思うととても嬉しいし、安心する。また親戚の人が近くに住んでいるのでよく遊びに行く。いろいろな話を聞いてくれるし、家族の心配もしてくれる。そんな優しい人達がたくさんいる。私の成長を家族とは違う形で見守ってくれる人達だ。都会とはまた違った人間関係が田舎にはある。私はとてもアットホームな感じがして居心地が良い。

また自然な音が聞こえてくるというのも魅力的だと思う。春は入学して嬉しそうな新入生の声。楽しそうに登下校している姿は初々しい。夏は祭りのにぎやかな音や花火の音が鳴

り響く。夜にはカエルとセミの大合唱が始まる。秋は石焼き芋のいいにおいのする車のアナウンスの声。冬は霜柱を踏んだり雪遊びを楽しんでいたたりする音など、季節を感じる音を聞くとその季節が待ち遠しくなる。四季折々やあたりまえの日常の音であつても私にはそれが美しいと思える。その音が私に良い影響を与えてくれて、生きる活力になっている。自然を感じられる音が自然と聞こえてくる。私はそののどかさがとても癒しになる。そして大好きだ。多分それは、都会ではなく田舎でしか感じることでできない事だと私は思う。

そしてなんと言つても緑が多く美しいというのも魅力を感じる。まわりを見わたせば緑がたくさんだ。春夏秋冬それぞれの景色が見られて、暮らしていて飽きない。私は飽きやすい性格なため、同じ景色を見ているのはおっくうだ。でも田舎は、色々な景色が見られる。そして空気が澄んでいて過ごしやすい。高い建物が少ないから夜空がきれいに見えて星が一つの芸術のように思える。飽きないから時間が良い意味で長く感じたり、逆に夢中になりすぎて時間があつという間に過ぎていたりする。毎日の小さな景色や音の変化があるから、自分の町への誇りを感じ、いつでも感謝を忘れずに過ごせている。私が毎日常家に帰りたいと思えるのは、そういう雰囲気なのだからだろうと思う。

もちろん都会が良いと思う事もあるだろう。商業施設が多くあるし、色々な所に行きやすい。都会には都会独特の音や景色が見られる。しかし、田舎でしか味わうことのできない、近所付き合いや自然の音や景色など、私にはなくてはならない存在だ。どんなに疲れていたとしても、その疲れを吹っ飛

ばしてくれる力が私の町にはあるのだ。

時には、自分の住んでいる町以外の町にも出かけてみると良いと思う。きっと今自分が住んでいる町の魅力や、逆に他の地域の魅力にも気づくと思う。田舎は優しい人達がたくさんいて、色々な音や景色が味わえるいい所だ。



審査講評

令和二年度 チャレンジいばらき作文コンクール

審査委員長 茨城大学教育学部教授 川嶋秀之

茨城県知事賞をはじめ各賞を受賞された皆様、まことにありがとうございます。

今年度の作文のテーマは「わたしの町の魅力・発見」です。普段の生活や見慣れた風景はあまりに当たり前すぎて、なかなか魅力に気づかないものです。自分の町を見渡して、そしてじっくりと見つめ、すばらしいところを意識的に発見していただくようとして設定した次第です。

応募総数は三、四九八点で、昨年の約四分の一に減りました。これは、新型コロナウイルスの流行で三月から小・中学校が休校となり一定期間授業ができなかったため、その補填に夏休みが使われたことの影響が大きいと思われる。

以下、「茨城県知事賞」を受賞した作文について紹介します。小学校低学年の部…二階堂大智さん「はくちょうのとおりみち」。一階堂さんの通学路は白鳥の飛ぶ通り道と重なっています。多いときには12羽もの白鳥がリーダーの白鳥を先頭にV字型に飛んでゆくそうです。白鳥は「手を伸ばしたら触

れそうな」ところを「頭すれすれを通過して飛んで」ゆき、「広げた羽はぼくよりずっと大きく」、「羽ばたく音も『バサリ。バサリ。』とびっくりするような音」がします。目と耳を通してよく観察されていますね。白鳥の飛ぶ迫力が伝わってきます。また最後に、毎年那珂市を選んで来てくれる白鳥への感謝の気持ちが綴られ、その思いが伝わりました。

小学校高学年の部…石島和奈さん「『当たり前』の美しいふるさと」。石島さんは「当たり前」とはなんだろうと、当たり前前に疑問を發します。毎日当たり前のように食べている野菜、当たり前のように見ている四季折々の筑波山の風景。そして毎日の学校の授業。石島さんはよい授業がなされる背後に、先生方の準備の苦労があることに気づきます。そうだ、野菜作りも、美しい風景も同じで、見えないところで支えている人たちがいる！「当たり前」の背後にいる見えない人たちに思いを馳せる想像力が素晴らしい作文です。

中学校の部…土田有紗さん「私に今出来ること」。土田さんのお祖父さんはお米作りをしています。今年は天候不順でお祖父さんの表情は冴えませんが、そんなお祖父さんのために、土田さんはお祖母さんと一緒にかまどでご飯を炊いて食べさせようとします。この時のわくわく感とお祖母さんのはしゃいでいる様子がいきいきと書かれています。ご飯が炊ける様子

の観察・描写もすぐれています。炊き上がったご飯はさぞおいしかったことでしょう。しかし後継者問題もあり、将来も米作りを続けていけるか、問題点も見据えています。その問題意識が文章に深みを与えています。

最後に、ご指導に当たられた各学校の先生方に謝意を表し、講評と致します。

令和二年度 チャレンジいばらき作文コンクール 審査委員

川 嶋 秀 之
小 林 由 士 郎
小 田 部 修 一
栗 山 賢 司
内 桶 博 仁
大 高 茂 樹
潮 田 昌 造
井 坂 英 二
大 久 保 昌 義
池 田 智 子
加 藤 欣 一
川 野 和 彦
河 野 公 房
菊 地 寿 代
小 坪 明 美
後 藤 京 子
島 田 百 子
寺 内 義 與
西 村 重 之
福 間 智 子